タンザニア連合共和国

貧困プロファイル

2012 年 3 月

独立行政法人　国際協力機構（JICA）

当資料は政府・国際機関の報告書・統計・資料からの抜粋を邦訳し、執務参考資料として取り纏めたものであり、JICA の見解を示すものではありません。転載・引用に際しては、直接、出典元から行い、当資料からの転載・引用は行わないでください。

基盤
JR
12-132

目次

I. タンザニアの貧困状況と政策枠組み 1
1. タンザニアの貧困状況の概観 1
II. タンザニアの貧困削減のための政策枠組み 2
1. 第 2 次成長と貧困削減のための国家戦略（National Strategy for Growth and Reduction of Poverty II） 2
(1) 成長と所得貧困（income poverty）削減 2
(2) 生活及び社会福祉の質の向上 3
(3) グッドガバナンスと説明責任 3
2. 第 1 次成長と貧困削減のための国家戦略（National Strategy for Growth and Reduction of Poverty I） 3
3. 貧困削減戦略（PRSP） 4
4. セクター戦略 4
III. 貧困線に基づく分析 6
1. 貧困線とデータ 6
2. 貧困の状況—貧困率・貧困ギャップ率・ジニ計数の分析 6
IV. 貧困率以外の指標の分析 9
1. HDI による経年変化の分析と地域国際比較 9
2. MDG 指標の分析 11
3. 食糧安全保障・脆弱性による分析 13
V. 社会的属性・特性と貧困との関連の分析 15
1. 世帯構成の特徴と貧困率 15
2. 職業（現金収入源）と貧困率 16
3. 教育水準と貧困 18
4. 主要社会サービスと貧困 19
(1) 教育 19
(2) 医療サービス 23
(3) 給水サービス等 24
5. 農村部と貧困 26
VI. 貧困に影響を与えている国内外の要因 31
1. 旱魃 31
2. 食糧価格の高騰 32
3. 植物病害及び疫病 32
4. グローバル経済動向 33
5. 難民問題及び住民移動 33
VII. JICA の優先課題における貧困 34

1. 貧困削減のための経済成長 34
2. 経済成長と貧困削減を支えるインフラ開発：運輸・交通、電力・給水 35
3. 全国民に対する行政サービスの改善 38
添付 1. 参考文献リスト 40
添付 2. 主要な情報源リスト 42

図表・地図目次

図表 1 主要指標一覧 v
図表 2 貧困率・貧困ギャップ率・二乗貧困率 vii
図表 3 HDI 指標 vii
図表 4 MDG 指標 viii
図表 5 貧困（食糧・基本的ニーズ）の発生率（単位：%）（2000/01 年, 2007 年） 2
図表 6 タンザニアの貧困線（単位：TZS（名目価格）） 6
図表 7 貧困率の推移（1991-2007 年） 7
図表 8 食糧貧困率の推移 7
図表 9 CBN 貧困率の推移 7
図表 10 貧困ギャップ率の推移（1991-2007 年） 7
図表 11 ジニ係数の推移（1991-2007 年） 8
図表 12 貧困人口の分布の推移（2001-2007 年）（単位：千人） 8
図表 13 タンザニアの人間開発指標の推移（1990-2010 年） 9
図表 14 タンザニア、サブサハラ地域、世界の HDI の推移（再掲） 10
図表 15 タンザニア HDI の各指標推移（1980-2011 年） 11
図表 16 タンザニア本土及びザンジバルの代表的 MDG 指標達成状況（再掲） 12
図表 17 世帯規模別貧困率の推移（1991-2007 年） 15
図表 18 扶養家族の割合と貧困率の推移（1991-2007 年） 16
図表 19 職業別貧困率の推移（1991-2007 年） 17
図表 20 現金収入を得る手段別貧困率の推移（2000 年, 2007 年） 18
図表 21 世帯主の性別別貧困率（2000-2007 年） 18
図表 22 世帯主の教育水準と貧困の推移（1991-2007 年） 19
図表 23 貧困状態別の就学率の推移（2001-2007 年） 20
図表 24 地域別・貧困状態別での 7-13 歳の進学率の推移（1991-2007 年） 20
図表 25 州別就学率（タンザニア本土）（2009/2010 年） 21
図表 26 地域別純就学率（ザンジバル）（2009/2010 年） 21
図表 27 初等教育卒業試験合格率の推移（2001-2008 年） 22
図表 28 医療機関へのアクセス率（貧困状況別）（2007 年） 23
図表 29 乳幼児死亡率の推移（1999-2007 年） 24

図表 30　給水率及びトイレ施設へのアクセス率（1991-2007 年）..... 25
図表 31　地域別の上水道・衛生設備にアクセスがない割合（2009/10 年）..... 25
図表 32　州別・男女別の平均耕作面積（2002/03 年）..... 27
図表 33　農業生産投入されている用地の割合（2003 年）..... 28
図表 34　都市化率の推移（1960-2005 年）..... 28
図表 35　地域別家庭の電化率の推移（2000/01, 2007 年）..... 29
図表 36　非正規雇用者を有する世帯の推移（2001, 2006 年）..... 29
図表 37　非正規雇用の内訳（男女別）（2006 年）..... 30
図表 38　旱魃の影響（タイプ別）..... 31
図表 39　収入、資産、食糧供給に対する旱魃の影響（2009/2010 年）..... 32
図表 40　MKUKUTA II で示されている運輸・交通セクターの優先活動..... 37
図表 41　MKUKUTA II で示されている電力セクターの優先活動..... 38
図表 42　MKUKTA II で示されている給水インフラの優先活動..... 38

地図 1　タンザニアの行政区画 ix
地図 2　貧困率（州別）.....x
地図 3　州別食糧安全保障が確保されていない人口の割合（本土）（%）..... 13
地図 4　地域別食糧安全保障状況（ザンジバル島）..... 14
地図 5　州別農業従事者数及び女性農家の割合（単位：人、%）（2002/03 年）..... 26
地図 6　Borderline poor consumption に苦しむ家庭の割合（州別）..... 34
地図 7　タンザニア(本土)の道路整備状況 36

略語表

ASDP	Agricultural Sector Development Programme	農業セクター開発プログラム
CBN	Cost-of-Basic-Need method	最小費用法
CFSVA	Comparative Food Security and Vulnerability Analysis	包括的食糧安全保障・脆弱度分析
EAC	East African Community	東アフリカ共同体
GBS	General Budget Support	一般財政支援
GDP	Gross Domestic Product	国内総生産
HBS	Household Budget Survey	家計調査
HDI	Human Development Index	人間開発指標
HDR	Human Development Report	人間開発報告書
HSSPIII	Health Sector Strategic Plan III	保健セクター戦略計画 III
ILO	International Labour Organization	国際労働機関

MDGs	Millennium Development Goals	ミレニアム開発目標
MKUKUTA II	National Strategy for Growth and Reduction of Poverty	成長と貧困削減のための国家戦略
PRSP	Poverty Reduction Strategy Paper	貧困削減戦略書
NHDR	National Human Development Report	国別人間開発報告書
SADC	The Southern African Development Community	南部アフリカ開発共同体
UN	United Nations	国際連合（国連）
WB	World Bank	世界銀行（世銀）
WFP	World Food Programme	世界食糧計画
WHO	World Health Organization	世界保健機関
WSDP	Water Sector Development Programme	水セクター開発プログラム

図表 1　主要指標一覧[1]

主要指標一覧 【 タンザニア 】

	指 標 項 目	2000年	2008年	2009年	2010年	2010年の地域平均値
社会指標等	地表面積(1000km^2)	947	947	947	947	n.a.
	人口(百万人)	34.0	42.3	43.5	44.8	854.3
	人口増加率(%)	2.5	2.9	2.9	3.0	2.5
	出生時平均余命(歳)	50	56	57	n.a.	n.a.
	妊産婦死亡率(/10万人)	920	790	n.a.	n.a.	n.a.
	乳児死亡率(/1000人)	80.5	54.8	52.5	50.0	76.4
	一人当たりカロリー摂取量(kcal/1日)*1	1,929	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
	初等教育総就学率(男)(%)	68.7	112.2	105.8	101.5	n.a.
	初等教育総就学率(女)(%)	67.8	110.6	105.7	103.1	n.a.
	中等教育総就学率(男)(%)	7.0	30.1	30.7	n.a.	n.a.
	中等教育総就学率(女)(%)	5.7	20.2	24.1	n.a.	n.a.
	高等教育総就学率(%)	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
	成人識字率(15歳以上の人口の内:%)	n.a.	n.a.	72.9	n.a.	n.a.
	絶対的貧困水準(1日1.25$以下の人口比:%)	88.5	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
	失業率(%)	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
経済指標	GDP(百万USドル)	10,186	20,715	21,368	23,057	1,112,012
	一人当たりGNI(USドル)	300	460	500	530	1,187
	実質GDP成長率(%)	4.9	7.4	6.0	7.0	4.8
	産業構造(対GDP比:%)					
	農業	33.5	29.7	28.8	28.1	n.a.
	工業	19.2	23.1	24.3	24.5	n.a.
	サービス業	47.3	47.2	46.9	47.3	n.a.
	産業別成長率(%)					
	農業	4.5	4.6	3.2	5.4	n.a.
	工業	4.5	8.6	7.0	7.5	n.a.
	サービス業	5.4	8.5	7.2	7.6	n.a.
	総資本形成率(対GDP比:%)	16.8	26.7	29.8	30.6	23.7
	貯蓄率(対GDP比:%)	10.1	10.3	17.9	16.8	19.5
	消費者物価上昇率(インフレ:%)	5.9	10.3	12.1	6.2	n.a.
	財政収支(対GDP比:%)	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
	中央政府債務残高(対GDP比:%)	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
	貿易収支(対GDP比:%)	−6.8	−16.4	−11.9	−13.7	−2.5
	経常収支(対GDP比:%)	−4.2	−12.9	−9.0	−8.6	n.a.
	外国直接投資純流入額(百万ドル)	463	400	415	433	n.a.
	対外債務残高(対GNI比:%)	70.9	28.8	34.2	37.7	n.a.
	DSR(対外債務返済比率:%)	12.4	1.1	3.1	3.0	n.a.
	総外貨準備高(輸入支払い可能月数)	5.2	3.8	5.3	5.0	5.3
	総外貨準備高(百万ドル)	974	2,863	3,470	3,905	158,488
	名目対ドル為替レート*2	800.41	1,196.31	1,320.31	1,409.27	n.a.
	(Shillings per US Dollar: Period Average)					

政治指標*3	政治体制:共和制。大統領が最高権力者 憲法:1977年4月25日施行 元首:大統領。ｼﾞｬｶﾔ･ﾑﾘｼｮ･ｷｸｳｪﾃ(Jakaya Mrisho KIKWETE)。直接選挙制。任期5年。2005年12月21日就任、10年11月6日再任。2期まで 議会:国民議会(一院制)。346議席(うち239議席は直接選挙で選出、残りは任命制など)。任期5年 内閣:大統領が指名。首相 ﾐｾﾞﾝｺﾞ･ｶﾔﾝｻﾞ･ﾋﾟｰﾀｰ･ﾋﾟﾝﾀﾞ(Mizengo Kayanza Peter PINDA)。2008年2月13日発足、10年11月27日第2次発足

出典 World Development Indicators Online(December 2011) World Bank
*1 FAO Food Balance Sheets (June 2010) FAOSTAT Homepage
*2 International Financial Statistics Online (January 2012) IMF
*3 世界年鑑 2011 共同通信社

注 ●地域平均値はサブサハラ・アフリカの数値(地域分類は別添参照)
●「人口」、「GDP」、「外国直接投資純流入額」及び「総外貨準備高」の「2010年の地域平均値」においては、地域の総数を示す
●妊産婦死亡率の数値はWHO・ユニセフ・国連人口基金(UNFPA)の評価を反映した推定値
●総就学率は、学齢人口に占める就学者総数(年齢を問わない)の割合であるため、数値が100を超えることがある

[1] JICA 研究所にて年 3 回改定。https://libportal.jica.go.jp/fmi/xsl/library/public/data/shihyo-p.html https://libportal.jica.go.jp/fmi/xsl/library/public/data/shihyo-p.html （2012 年 3 月 23 日アクセス）

中央政府歳入・歳出【タンザニア】

	2008/09年 (十億T・シリング)	2009/10年 (十億T・シリング)	2010/11年Proj. (十億T・シリング)	2010/11年 (百万US$)*	2010/11年 対GDP比	
歳入＋贈与受取額	5,633	6,205	7,803	5,537	22.5%	対ドルレート
歳入	4,293	4,800	5,584	3,962	16.1%	1,409.27
租税収入	4,044	4,428	5,154	3,657	14.9%	
非税収入	249	372	430	305	1.2%	
贈与受取額	1,340	1,405	2,219	1,575	6.4%	
歳出	6,907	8,312	10,044	7,127	29.0%	GDP(現地通貨)
経常歳出	4,681	5,700	6,269	4,448	18.1%	34,656
人件費	1,609	1,723	2,363	1,677	6.8%	
利払い	243	249	287	204	0.8%	
財・サービス・移転	2,830	3,728	3,619	2,568	10.4%	
開発歳出	2,226	2,611	3,774	2,678	10.9%	
収支調整	60	167	0	0	0.0%	
財政収支	−1,215	−1,940	−2,241	−1,590	−6.5%	

歳出内訳(目的別分類)【タンザニア】

	2008/19年 (十億T・シリング)	2009/10年 (十億T・シリング)	2010/11年Proj. (十億T・シリング)	内訳	2010/11年 (百万US$)*	対GDP比
歳出	6,907	8,312	10,044	100.0%	7,127	29.0%
一般サービス	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
国防	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
公安	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
経済関連	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
環境保全	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
住宅・生活関連施設	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
保健・医療	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
レクリエーション・文化	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
教育	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
社会保障・福祉	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.

会計年度は7月～6月

*:対ドル換算レートはOfficial Rate, Period Average 出典はInternational Financial Statistics (Online) January 2012 IMF

出典 IMF Country Report No.11/105 May 2011 IMF

JICAの対タンザニア技術協力

通貨単位	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	累計
億円	23.57	21.36	20.10	23.02	25.98	699.45
百万ドル	20.25	18.14	19.44	24.60	29.59	

注:年の区切りは日本の会計年度(4月～3月)、また対ドル換算レートはOECD Homepageによる

出典: JICA技術協力実績

対タンザニアODA実績

《我が国》

(支出純額、単位:百万ドル)

暦年	政府貸付等	無償資金協力	技術協力	合計
2005年	−	14.44	21.67	36.11
2006年	−	17.68	21.71	39.39
2007年	33.96	667.66	20.04	721.66
2008年	5.40	43.36	22.23	70.99
2009年	48.56	48.68	23.22	120.46
累 計	53.56	2,344.99	560.25	2,958.80

《DAC諸国・国際機関》

(支出純額、単位:百万ドル)

暦年	1位		2位		3位		4位		5位		うち日本	合計
2006年	英国	218.86	米国	121.58	オランダ	114.56	スウェーデン	111.66	デンマーク	95.31	39.39	991.71
2007年	日本	721.66	英国	231.79	米国	166.89	オランダ	128.15	ノルウェー	114.29	721.66	1,830.67
2008年	英国	254.22	米国	246.95	ノルウェー	127.65	スウェーデン	125.53	ノルウェー	119.24	70.99	1,365.73

暦年	1位		2位		3位		4位		5位		その他	合計
2006年	IDA	399.14	CEC	188.76	AfDF	120.56	GFATM	62.20	UNICEF	12.85	37.14	820.65
2007年	IDA	505.70	CEC	187.11	AfDF	137.27	GFATM	74.93	UNICEF	14.99	61.26	981.26
2008年	IDA	421.10	CEC	185.90	GFATM	170.90	AfDF	93.11	UNICEF	17.93	71.21	960.15

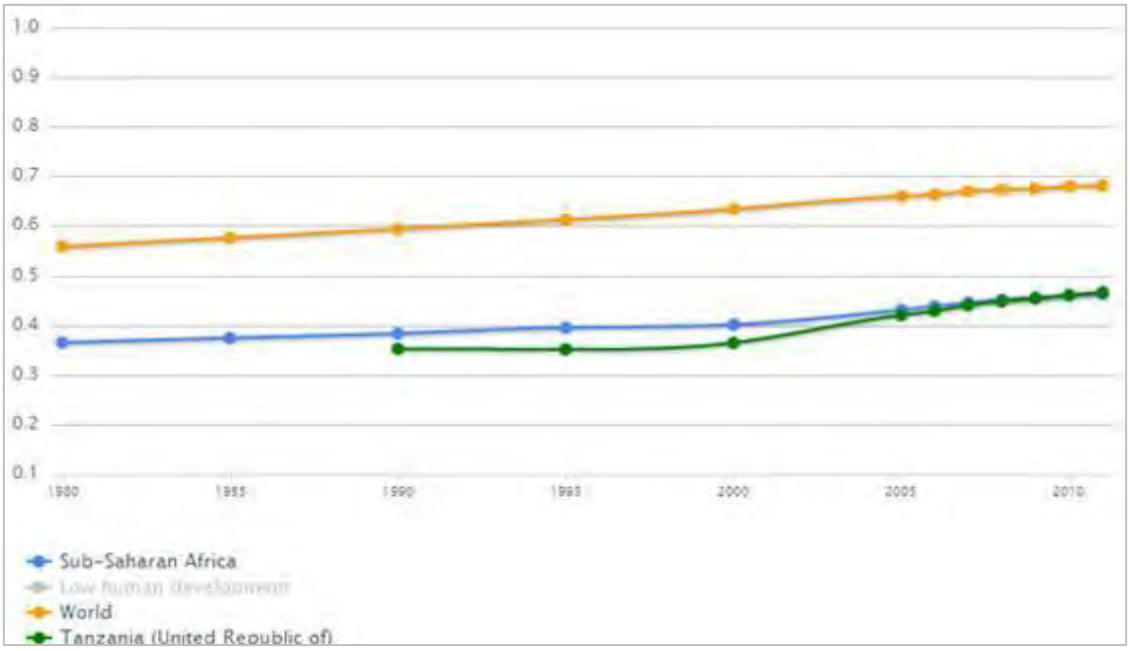
注:年の区切りは1月～12月の暦年。DAC集計ベース

出典:ODA国別データブック 2010 外務省

図表 2　貧困率・貧困ギャップ率・二乗貧困率[2]

指標	年	ダルエスサラーム	その他都市部	農村部
食糧貧困線	1991/92	13.6	15.0	23.1
	2000/01	7.5	13.2	20.4
	2007	7.4	12.9	18.4
CBN 貧困線	1991/92	28.1	28.7	40.8
	2000/01	17.6	25.8	38.7
	2007	16.4	24.1	37.6

図表 3　HDI 指標[3]



	Life expectancy at birth	Expected years of schooling	Means years of schooling
1980	50.5	7.3	2.5
1985	51.2	5.9	3.2
1990	50.6	5.5	3.6
1995	49.6	5.4	4.1
2000	50.4	5.4	4.6
2005	53.4	8.2	4.8
2010	57.4	9.1	5.1
2011	58.2	9.1	5.1

[2] The National Bureau of Statistics, Household Budget Survey 2007, p.49
[3] UNDP, Human Development Report http://hdr.undp.org/（2012 年 3 月 23 日アクセス）

図表 4　MDG 指標[4]

TANZANIA MID-WAY ASSESSMENT AT A GLANCE

Mainland

MDG	1990	2000	2008		2015	Glance
			Actual	Expected**		
Proportion of population below basic needs poverty line	39	36	33.64	25.0	19.5	
Under-5 Underweight (%)	28.8	29.5	22	18.4	14.4	
Under-5 Stunted (%)	46.6	44.4 (1999)	38	29.8	23.3	
Primary school net enrollment rate	54.2	58.7	97.2	87.2	100	
Under-five mortality rate (per 1,000 live births)	191	153	112	99.6	64	
Infant mortality rate (per 1,000 live births)	115	99	68	59.6	38	
Maternal Mortality Rate (per 100,000 live births)	529	-	578	244	133	
Births attended by skilled health personnel (%)	43.9	35.8	63	77.1	90	
HIV prevalence, 15-24 years	6	-	2.5	<6	<6	
Access to potable water :% of rural population	51	42 (2002)	57.1	67.6	74	
Access to potable water :% of urban population	68	85 (2002)	83	79.5	84	

** = Computed as % passage time thus 2008 is equivalent to 18 years or 72% time that has elapsed

Zanzibar

MDG	1990	2000	2008		2015	Glance
			Actual	Expected**		
Proportion of population below basic needs poverty line	60	-	51	38.4	30	
Under-5 Underweight (%)	39.9	25.8	7.3	14.3	20.0	
Under-5 Stunted (%)	47.9	35.8 (1999)	23.1	30.6	23.9	
Primary school net enrollment rate	50.9	67.0	83.4	86.3	100	
Under-five mortality rate (per 1,000 live births)	202	14.1	101	105	67	
Infant mortality rate (per 1,000 live births)	120	89	61	62.4	40	
Maternal Mortality Rate (per 100,000 live births)	377	323	473	173	94	
Births attended by skilled health personnel (%)	37	-	47	75.2	90	
HIV prevalence, 15-24 years	0.7	-	0.6	<0.7	<0.7	
Access to potable water :% of rural population	46	46	59	65.4	73	
Access to potable water :% of urban population	68	90	83	79.5	84	

** = Computed as % passage time thus 2008 is equivalent to 18 years or 72% time that has elapsed

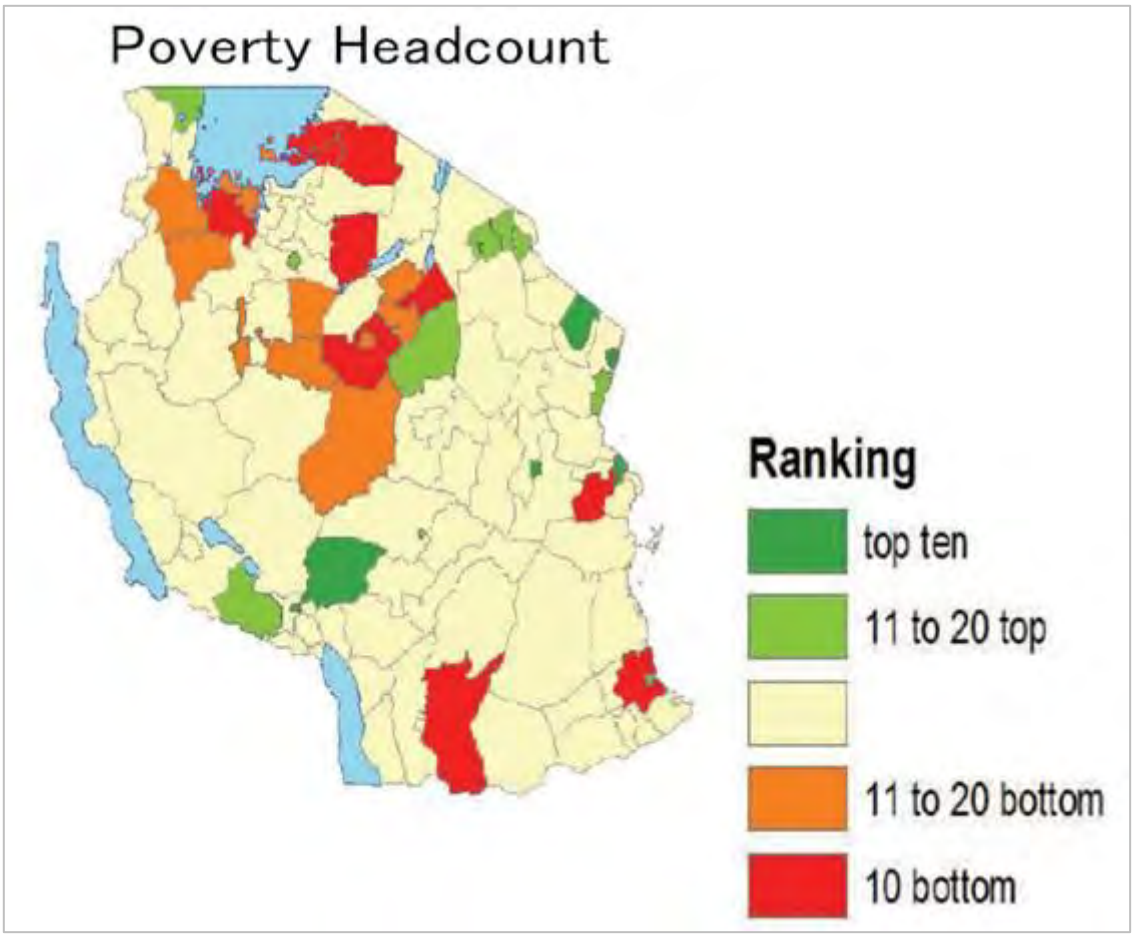
Unlikely to achieve　Likely to achieve　Achivable

[4] Ministry of Finance & Economic Affairs Poverty and Economic Empowerment Division (2006) "Millennium Development Goals Report-Mid Way Evaluation: 2000-2008" www.tz.undp.org/docs/mdgprogressreport.pdf（2012 年 3 月 23 日アクセス）

地図 1　タンザニアの行政区画[5]

[5] http://www.mapsofworld.com/tanzania/tanzania-political-map.html （2012 年 3 月 23 日アクセス）

地図 2　貧困率（州別）[6]



[6] TANZANIA POVERTY AND HUMAN DEVELOPMENT REPORT 2005, p.xiv
http://www.repoa.or.tz/documents_storage/PHDR_2005_Prelim.pdf （2012 年 3 月 23 日アクセス）

I. タンザニアの貧困状況と政策枠組み

1. タンザニアの貧困状況の概観

タンザニアはアフリカ大陸東部に位置し、ケニア、ウガンダ、ルワンダ、ブルンジ、コンゴ民主共和国、ザンビア、マラウィ、モザンビークと国境を接している。国土は 94 万 5087 平方キロ（日本の国土の約 2.5 倍）、総人口は 4,045 万人である。人口は、ナイジェリア、エチオピア、コンゴ民主共和国、南アフリカ共和国に次いで域内（サブサハラ）で 5 番目の規模を誇り、高い出生率、近隣国からの人口流入を背景に近年も年率 4%近くのスピードで拡大し続けている。

タンザニアは人間開発指数が 0.466、186 カ国中 152 位と貧困国の 1 つである。近年年率経済成長率が 3%から 7%と高水準であるものの、同国の全人口の 3 割以上は依然として貧困状況にある[7]。貧困は都市部及び地方部に広がっているが、その要因は異なっている。都市部の貧困は、急激な都市化が生み出したものである。社会インフラ、労働市場が未整備の中で、急激に都市人口が拡大したため、社会サービスを受けられない人々が増加した。また、彼らは正規雇用労働の機会にも恵まれないため、インフォーマルセクターでの非正規雇用で生計を立てることを余儀なくされている。例えば首都ダルエスサラームでは、非正規雇用のいる世帯は 2001 年に 22 万世帯から 2006 年には 2.3 倍の 52 万世帯に拡大している[8]。他方で地方部の貧困要因は同国にとって主要産業である農業の深く関係している。同国は天候、豊富な水資源にも恵まれ農業国であるが、小規模農業が中心であり生産性が低いこと、天水農業が主流であり農業の近代化（機械、肥料等の利用）が進んでいないために農民の約 80%は貧困となっている[9]。

タンザニア政府は貧困削減、社会開発を進める為、同国独自の貧困削減戦略である MKUTUKA を策定し「成長と経済的貧困の削減」、「生活及び社会福祉の質の向上」及び「グッドガバナンスと説明責任」を 3 つの柱として掲げ対策を行っている[10]。

---

[7] Household Budget Survey 2007, p.51
[8] ILO（2006）Integrated Labor Force Survey, p.43
[9] HBS2007, p.51
[10] Ministry of Finance and Economic Affairs (2010) National Strategy for Growth and Reduction of Poverty II, pp.5-23

II. タンザニアの貧困削減のための政策枠組み

1. 第２次成長と貧困削減のための国家戦略（National Strategy for Growth and Reduction of Poverty II）

タンザニアは2010年に同国にとって第3次貧困削減戦略にあたる成長と貧困削減のための国家戦略（スワヒリ語でMKUKUTA II[11]）を作成し、2010/11年度から5年間に亘る開発目標を設置している。MKUKUTA II の最大の目的は貧困削減の加速化であり、その為にPro-Poor な介入や成長へのボトルネックの抽出を同戦略の中で行っている。特にMKUKUTA II の位置づけとして、同国が1988年に長期的な視点での開発計画として策定したビジョン2025（Vision 2025）やミレニアム開発目標（MDGs）を計測可能な成果に転換するものとしている。その為の取り組みとして以下の3つのクラスター、「成長と経済的貧困（income poverty）の削減」、「生活及び社会福祉の質の向上」及び「良い統治と説明責任」、その下に具体的な目標（goals）（詳細は以下に記載）が複数され実施を行っていくとされている。以下では3つのクラスター及びその目標に関し解説する。

(1) 成長と所得貧困（income poverty）削減

近年タンザニアは急激な経済成長とGDPの伸びを示しているにも係らず、所得貧困は改善されていない。2000/01年には35.7%だった所得貧困（基本的ニーズ）は2007/08年は33.6%とほぼ横ばい状態である。また地域別では都市部よりも地方が食糧・所得貧困共に数値が高いことが分かる[12]。

図表 5　貧困（食糧・基本的ニーズ）の発生率（単位：%）（2000/01年, 2007年）

Incedence of Poverty					
	Year	Dar es Salaam	Other Urban Areas	Rural Areas	Mainland Tanzania
Food					
	2000/01	7.5	13.2	20.4	18.7
	2007	7.4	12.9	18.4	16.6
Basic Needs					
	2000/01	17.6	25.8	38.7	35.7
	2007	16.4	24.1	37.6	33.6

（出所）MKUKUTA II, p5, Table 2.1

これらの貧困問題に対応するため、MKUKUTA II では主に以下5つの目標を設定している。

1. 健全なマクロ経済管理
2. 包括的・持続的で、雇用創出を伴う成長と開発を通じた所得貧困の削減
3. 生産性が高くディーセントな雇用の創出と維持（特に女性、若年層、障害者の雇用）

[11] 英語ではNSGRP II と標記される。
[12] Ministry of Finance & Economic Affairs Poverty and Economic Empowerment Division (2006) “Millennium Development Goals Report-Mid Way Evaluation: 2000-2008”, pp.5-10

4. 食糧・栄養面での安全保障と環境の持続性、気候変動適応・緩和への取組み
5. 国家資源へのリターンを、国内、特に農村のコミュニティーに還元

(2) 生活及び社会福祉の質の向上

MKUKUTA II が資源を集中すべき分野として、第一に最貧困層及び最も脆弱な人々の生活及び社会福祉の改善、第二に格差の解消が挙げられている。具体的には、地域、年齢、収入、性別による教育、保健、水、衛生、社会福祉等の社会サービスに存在する格差の解消を目指している[13]。その上で以下 6 つの目標が設定されている。

1. 男女の平等な教育へのアクセスと、成人の識字率の向上
2. 職業・技術・専門学校教育及び高等教育及びインフォーマル・生涯教育の改善
3. 特に児童、女性、脆弱グループの生活、健康、栄養、福祉の改善
4. より清潔で安全な水へのアクセス向上
5. 環境の質を維持した住居環境の改善
6. 適切な社会保障の提供と脆弱グループへの権利付与

(3) グッドガバナンスと説明責任

ここでは特に政府の行政能力向上や 4 つの目標が示されている。具体的には、第一にグッドガバナンスと法の支配の確保、第二に政治家及び公共サービス部門の信頼向上、第三に民主化と社会的許容性の深化、最後に平和、政治の安定性の達成[14]が掲げられている。

2. 第 1 次成長と貧困削減のための国家戦略（National Strategy for Growth and Reduction of Poverty I）

MKUKUTA II の前身が MKUKUTA I であり、対象期間は 2005/06 年度から 2009/10 年度の 5 ヵ年となっている。MKUKUTA I も II 同様に 3 つのクラスター（1）成長と経済的貧困の削減、2) 生活の質及び社会福祉の向上、及び 3) グッドガバナンスと説明責任）で構成されていた。

MKUKUTA I の成果として、教育、保健、水、エネルギー、通信、インフラ（特に道路）といった社会サービス提供及びガバナンスの改善が指摘されている。またこれら社会サービス改善を可能にした理由として、税収増とドナーによる資金援助がある。2005/06 年度の予算額が 1,770 億シリング（TZS）[15]であったが、2009/10 年度には 3,900 億 TZS にまで増加している。主な成果は以下のとおりとなっている[16]。

---

[13] Ibid, pp.10-18
[14] Ibid, pp.18-21
[15] 1 タンザニアシリング（TZS）=0.049 円（JICA 平成 23 年度精算レートより）。
http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/consul_g/pdf/rate_2011.pdf （2012 年 3 月 23 日アクセス）
[16] Ministry of Finance and Economic Affairs (2010) National Strategy for Growth and Reduction of Poverty II, p.ivv

教育	:	・新規中学校建設数：2,171 校 ・中等教育就学者数が 52 万 4,325 人から 163 万 8,669 人に増加
保健	:	・医療施設の建設の推進（診療所、保健センター、病院の新規建設） ・医療器材、薬の新規購入
水	:	・農村部のアクセス率の改善（53.7%から 60.1%） ・都市部のアクセス率の改善（74%から 84%）
道路	:	・新規の 2,200km の道路舗装
ガバナンス	:	・行政改革の推進 ・PFM システムの改善 ・司法制度の改善

3. 貧困削減戦略（PRSP）

PRSP は MKUKUTA I 策定前の 2000/01 年度から 3 年間の貧困削減に向けた中期計画である。重点分野は所得貧困の改善、教育及び保健セクターの開発となっている。目標値及び成果は以下のとおりとなっている[17]。

経済的貧困の改善	:	・CBN 貧困率が 2003 年に 31%に（目標値は 30%）[18] ・GDP 成長率が 2003 年 5.5%に（目標値は 6.5%） ・農業セクター成長率が 2003 年に 3.3%に（目標値は 5%）
保健	:	・1,000 人あたりの乳幼児死亡率が 95 人に（目標値は 85 人） ・1,000 人あたりの 5 歳未満幼児死亡率が 126 人に（目標値は 127 人）
教育	:	・初等教育粗就学率が 105%に（目標値 100%） ・初等教育純就学率が 89%に（目標値は 90%）

4. セクター戦略

MKUKUTA II は包括的な貧困削減戦略であるが、それ以外にもセクター別にも各種戦略が策定されている。主なものは以下のとおりである。

- 教育セクター開発計画（2001 年より実施）：教育へのアクセスの拡充と質の高い教育サービスの提供の為の地方行政能力強化を実施している。
- 保健セクター戦略計画 III（HSSPIII: 2009-2015 年）：保健サービス提供の質とアクセスの改善を目指している。

[17] The Republic of Tanzania (2000) Poverty Reduction Strategic Paper
[18] CBN とは、最小費用法（Cost-of-Basic-Need method: CBN）の意味。

- 保健人材開発戦略（2008-2012 年）：保健人材開発における計画策定の能力強化、公共部門及び民間セクターにおけるリーダーシップ・経営能力の強化、保健人材育成研修の提供・マネージメント体制の強化と研修の質の確保、保健人材雇用・配置メカニズムの改善等が目的である。
- 水セクター開発プログラム（WSDP）：統合水資源管理・開発の促進等 4 つの柱が設定されている。
- 農業セクター開発プログラム（ASDP）：農業セクターを包括する開発プログラム。農業予算の地方分権化も進められている。

III. 貧困線に基づく分析

1. 貧困線とデータ

タンザニアでは、貧困削減の状況のモニタリングを目的として、2 種類の貧困線が設定されている。1 つは食糧貧困線、もう 1 つは最小費用法（Cost-of-Basic-Need method: CBN）により算出された CBN 貧困線である。食糧貧困線は、成人が生存に最低限必要な 1 日あたりのエネルギー摂取量を 2,200 キロカロリーと設定し、実際にタンザニアで摂取されている成人 1 ヶ月あたりのエネルギー摂取量[19]とを比較し、現地通貨で表したものである[20]。他方、CBN 貧困線は、食糧貧困線に必要最低限の非食糧支出（貧困率下位 25%の非食糧支出）を加算したものとなっている[21]。この 2 種類の貧困線の違いは、食糧貧困線は人間が生存するために最低限必要なエネルギーを摂取できる支出額を示しているのに対し、CBN 貧困線では必要最低限の生活を営むのに要する消費支出を示しているという点である。

タンザニア政府が過去 3 回（1991/92, 2000/01 及び 2007 年）実施している家計調査（Household Budget Survey: HBS）データを基に、推計された食糧貧困線及び CBN 貧困線（全国、ダルエスサラーム（首都）、その他都市部、及び農村部の 4 地域）は図表 6 に示されたとおりである。

図表 6　タンザニアの貧困線（単位：TZS（名目価格））

Table 7.1 Poverty Lines per Adult Equivalent for 28 days (TZ Shillings)

	Dar es Salaam	Other urban areas	Rural areas	Mainland Tanzania
Food Poverty Line				
1991/92	3,031	2,387	1,958	2,083
2000/01	6,719	5,607	5,107	5,295
2007	13,098	10,875	9,574	10,219
Basic Needs Poverty Line				
1991/92	4,040	3,182	2,611	2,777
2000/01	9,203	7,680	6,996	7,253
2007	17,941	14,896	13,114	13,998

（出所）HBS2007 P48 Table 7.1

2. 貧困の状況—貧困率・貧困ギャップ率・ジニ計数の分析

貧困率は 1991/92 年から 2007 年にかけて改善の傾向を示しているが、そのスピードは遅々としており、貧困率（食糧貧困線以下の人口の割合）は 1991/92 年の 21.6%から 16.6%

[19] 2007HBS の成人 1 人当たりの摂取カロリーは 2000/01 年調査の際に設定された摂取カロリーの中央値にインフレ率を加味し算出したものとなっている（HBS2007 p.89）。

[20] 本来ならば地域毎に食生活形態は異なり、地理的条件や価格条件から食糧品目の入手可能品目も異なることから、それらを反映した食糧消費量の品目内容と消費量を設定することが望ましいが、タンザニアの場合、HBS 全体の中央値から食糧消費量が設定されている点に注意が必要である。食糧貧困線の算出方法は、1 人あたり 1 日栄養摂取量/2,200 キロカロリー（1 日当たりの必要エネルギー）x1 人当たり 1 日食糧支出額、となっている。

[21] 注 20 と同様、また JBIC(2006)でも指摘されているとおり、タンザニアでは地域毎の食生活携帯の差異が考慮されていないため、正確に各地の実情を反映したものとはなっていない。CBN 貧困線の算出方法は、1 人当たり食糧消費額/1 人当たり消費支出月額÷食糧貧困線、となっている。

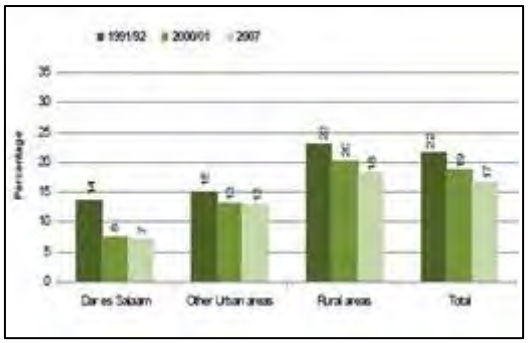
へ、また非食糧も含めた貧困率である CBN 貧困では 38.6%から 33.6%と小規模な改善に止まっている。地域別には改善のスピードはダルエスサラームを中心とする都市部が早く、ダルエスサラームが約 40%改善しているにも係らず、地方は約 8%の改善となっている。

図表 7　貧困率の推移（1991-2007 年）

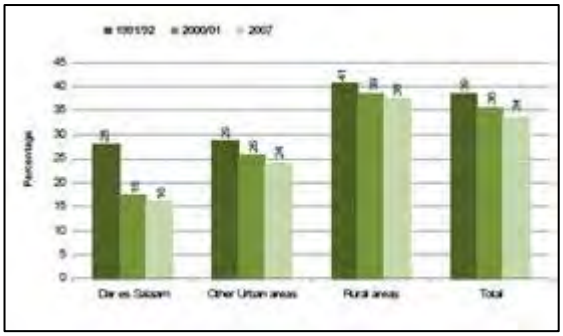
	Year	Dar es Salaam	Other Urban areas	Rural areas	Mainland Tanzania
Food	1991/92	13.6	15.0	23.1	21.6
	2000/01	7.5	13.2	20.4	18.7
	2007	7.4	12.9	18.4	16.6
Basic Needs	1991/92	28.1	28.7	40.8	38.6
	2000/01	17.6	25.8	38.7	35.7
	2007	16.4	24.1	37.6	33.6

（出所）HBS 2007, p49, Table 7.2

図表 8　食糧貧困率の推移
（表 7 をグラフ化したもの）



図表 9　CBN 貧困率の推移
（表 7 をグラフ化したもの）



（出所）HBS 2007 p50, Figure 7.1 & 7.2

貧困層の深度について示す貧困ギャップ率に関しては、 図表 10 のとおり、その改善はわずかとなっている。タンザニア全体では、食糧貧困については 5.9 から 4.3、CBN 貧困では 11.8 から 9.9 となっている。つまり、貧困層の貧困線からの乖離状況には、大きな改善はなかったと考えられる。

図表 10　貧困ギャップ率の推移（1991-2007 年）

	Dar es Salaam			Other Urban Areas			Rural Areas			Mainland Tanzania		
	1991/92	2000/01	2007	1991/92	2000/01	2007	1991/92	2000/01	2007	1991/92	2000/01	2007
食糧貧困	3.2	1.5	1.5	3.5	3.5	3.5	6.5	5.1	4.7	5.9	4.6	4.3
CBN 貧困	7.5	4.1	4.1	8.1	7.7	7.5	12.7	11.5	11	11.8	10.5	9.9

（出所）HBS 2007

貧富の格差を示すジニ係数についても、1991 年以降大きな変化はない。タンザニア全体で 1991 年に 0.34 であったが、2007 年には 0.35 と 0.01 ポイント悪化している。地域別には大きな差異はないが、都市部での係数が最も高く格差が大きく、逆に地方において小さくなっている。

図表 11　ジニ係数の推移（1991-2007 年）

Table 7.4 Gini Coefficients

	Dar es Salaam	Other urban areas	Rural areas	Mainland Tanzania
1991/92	0.30	0.35	0.33	0.34
2000/01	0.36	0.36	0.33	0.35
2007	0.34	0.35	0.33	0.35

（出所）HBS 2007 p51, Table 7.4

また上述の限定的な貧困率の改善は、実際の貧困人口の減少には結びついておらず、ダルエスサラーム、都市部（ダルエスサラームを除く）及び地方まで全域で貧困人口は増加している（以下 図表 12 参照）。これはタンザニアの高い人口増加率が原因である。貧困率は改善しているにも係らず、貧困に苦しむ人口は、2001 年の約 597 万人から 2007 年には約 635 万人へと 38 万人増加している。また CBN 貧困人口も同様の傾向を示しており、2001 年には約 1,138 万人から 2007 年には約 1,287 万人と 149 万人も増加している。地域別では地方の貧困人口が全体の 80%以上を占めており、貧困人口の最大の排出地域は地方となっている[22]。

図表 12　貧困人口の分布の推移（2001-2007 年）（単位：千人）

Table 7.3 Distribution of the Poor in Tanzania

	Dar es Salaam		Other urban areas		Rural areas		Mainland Tanzania	
	2000/01	2007	2000/01	2007	2000/01	2007	2000/01	2007
Total population '000	1,845	2,882	4,405	6,778	25,650	28,632	31,900	38,291
Share of population	5.8	7.5	13.8	17.7	80.4	74.8	100	100
Number of poor								
Food Poverty '000	138	212	581	874	5,233	5,267	5,965	6,353
Basic Needs '000	325	474	1,136	1,636	9,926	10,760	11,388	12,870
Percentage of poor								
Food Poverty	2.3	3.3	9.7	13.8	87.7	82.9	100	100
Basic Needs	2.9	3.7	10.0	12.7	87.2	83.6	100	100

（出所）HBS 2007, p51, Table 7.3

[22] Household Budget Survey 2007. p.50-51

IV. 貧困率以外の指標の分析

1. HDI による経年変化の分析と地域国際比較

タンザニアの HDI は 1990 年の 0.352 から改善傾向にあり、2011 年には 0.466 と 32%（年率 1.4%）改善している[23]。これは全 187 カ国中 152 位に相当し、依然として低いことが分かる。周辺国との比較では、カメルーン（0.482, 150 位）、マダガスカル（0.480, 151）、セネガル（0.459, 155）、ナイジェリア（0.459, 156）となっている。

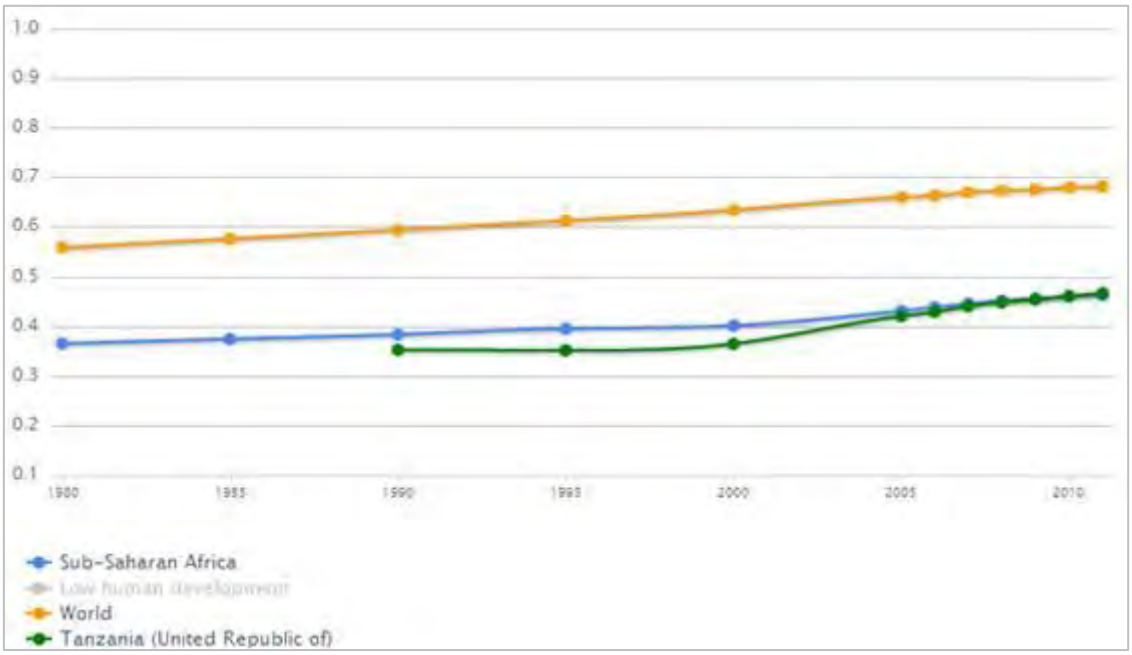
図表 13　タンザニアの人間開発指標の推移（1990-2010 年）

Year	Tanzania
2011	0.466
2010	0.461
2009	0.454
2008	0.448
2007	0.440
2006	0.429
2005	0.420
2000	0.364
1995	0.351
1990	0.352

（出所）http://hdr.undp.org　（2012/3/23 アクセス）

[23] UNDP (2011) Explanatory Note on 2011 HDR composite indices United Republic of Tanzania p.2

図表 14　タンザニア、サブサハラ地域、世界の HDI の推移[24]（再掲）



以下図表 15 は 1980 年以降の HDI の各指標の結果を纏めたものである。平均寿命は 1995 年に悪化したが、その後は順調に改善傾向にある。1980 年には 50.5 年だったが 2011 年には 7.7 年改善し 58.2 年となっている。この主な理由は HIV/AIDS 感染率の減少及び子供の生存率の改善が指摘されている[25]。また Expected years of schooling は 1980 年の 7.3 年をピークに 2000 年まで長期悪化傾向にあり、2000 年には 5.4 年にまで悪化した。その後改善基調にあり、2011 年には 9.1 年となっている（この一時的な悪化に関しては V. 4.(1) で後述）。また、平均就学年数は 1980 年の 2.5 年から 2011 年には 5.1 年と、そのスピードは遅いものの改善傾向にあることが推察される[26]。

[24] UNDP International Human Development Indicators, Tanzania Country Profile: Human Development Indicators　http://hdrstats.undp.org/en/countries/profiles/TZA.html（2012 年 3 月 23 日アクセス）
[25] Ministry of Finance and Economic Affairs (2010) MKUKUTA II pp.12-13
[26] 教育に関する記述（Expected years of schooling 及び Means years of schooling）は Explanatory Note on 2011 HDR composite indices United Republic of Tanzania p.2 より。

図表 15　タンザニア HDI の各指標推移（1980-2011 年）

Table A: United Republic of Tanzania's HDI trends based on consistent time series data, new component indicators and new methodology

	Life expectancy at birth	Expected years of schooling	Means years of schooling	GNI per capita (2005 PPP$)	HDI value
1980	50.5	7.3	2.5	..	..
1985	51.2	5.9	3.2	..	..
1990	50.6	5.5	3.6	0,834	0.352
1995	49.6	5.4	4.1	0,785	0.351
2000	50.4	5.4	4.6	0,839	0.364
2005	53.4	8.2	4.8	1,060	0.420
2010	57.4	9.1	5.1	1,272	0.461
2011	58.2	9.1	5.1	1,328	0.466

（出所）UNDP (2011) Explanatory Note on 2011 HDR composite indices United Republic of Tanzania p2

2. MDG 指標の分析

タンザニア政府が 2008 年に発行した"MDGs Mid-Way Evaluation"によると、同国の MDGs 目標の進捗に関しては相当の進捗があったと評価されている[27]。特に改善が著しい目標として、タンザニア本土の小学校への入学率、HIV 蔓延の防止、飲料水へのアクセス（都市部）、ザンジバルの初等教育の達成、HIV 蔓延の防止、飲料水へのアクセス（都市部、農村部）に関しては 2015 年までの目標を達成可能性が高いとされている。他方で、本土及びザンジバルの極度の貧困と飢餓の撲滅、乳幼児死亡率の削減、本土での農村部での飲料水へのアクセスは 2015 年までに目標達成は難しいと指摘されている[28]（詳細は以下 図表 16 ）。

[27] United Republic of Tanzania (2008) Millennium Development Goals Report Mid-Way Evaluation 2000-2008, p.3
[28] Ibid, pp.1-2

図表 16　タンザニア本土及びザンジバルの代表的 MDG 指標達成状況（再掲）

MDG	1990	2000	2008		2015	Glance
			Actual	Expected**		
Proportion of population below basic needs poverty line	39	36	33.64	25.0	19.5	
Under-5 Underweight (%)	28.8	29.5	22	18.4	14.4	
Under-5 Stunted (%)	46.6	44.4 (1999)	38	29.8	23.3	
Primary school net enrollment rate	54.2	58.7	97.2	87.2	100	
Under-five mortality rate (per 1,000 live births)	191	153	112	99.6	64	
Infant mortality rate (per 1,000 live births)	115	99	68	59.6	38	
Maternal Mortality Rate (per 100,000 live births)	529	-	578	244	133	
Births attended by skilled health personnel (%)	43.9	35.8	63	77.1	90	
HIV prevalence, 15-24 years	6	-	2.5	<6	<6	
Access to potable water :% of rural population	51	42 (2002)	57.1	67.6	74	
Access to potable water :% of urban population	68	85 (2002)	83	79.5	84	

** = Computed as % passage time thus 2008 is equivalent to 18 years or 72% time that has elapsed

Zanzibar

MDG	1990	2000	2008		2015	Glance
			Actual	Expected**		
Proportion of population below basic needs poverty line	60	-	51	38.4	30	
Under-5 Underweight (%)	39.9	25.8	7.3	14.3	20.0	
Under-5 Stunted (%)	47.9	35.8 (1999)	23.1	30.6	23.9	
Primary school net enrollment rate	50.9	67.0	83.4	86.3	100	
Under-five mortality rate (per 1,000 live births)	202	14.1	101	105	67	
Infant mortality rate (per 1,000 live births)	120	89	61	62.4	40	
Maternal Mortality Rate (per 100,000 live births)	377	323	473	173	94	
Births attended by skilled health personnel (%)	37	-	47	75.2	90	
HIV prevalence, 15-24 years	0.7	-	0.6	<0.7	<0.7	
Access to potable water :% of rural population	46	46	59	65.4	73	
Access to potable water :% of urban population	68	90	83	79.5	84	

** = Computed as % passage time thus 2008 is equivalent to 18 years or 72% time that has elapsed

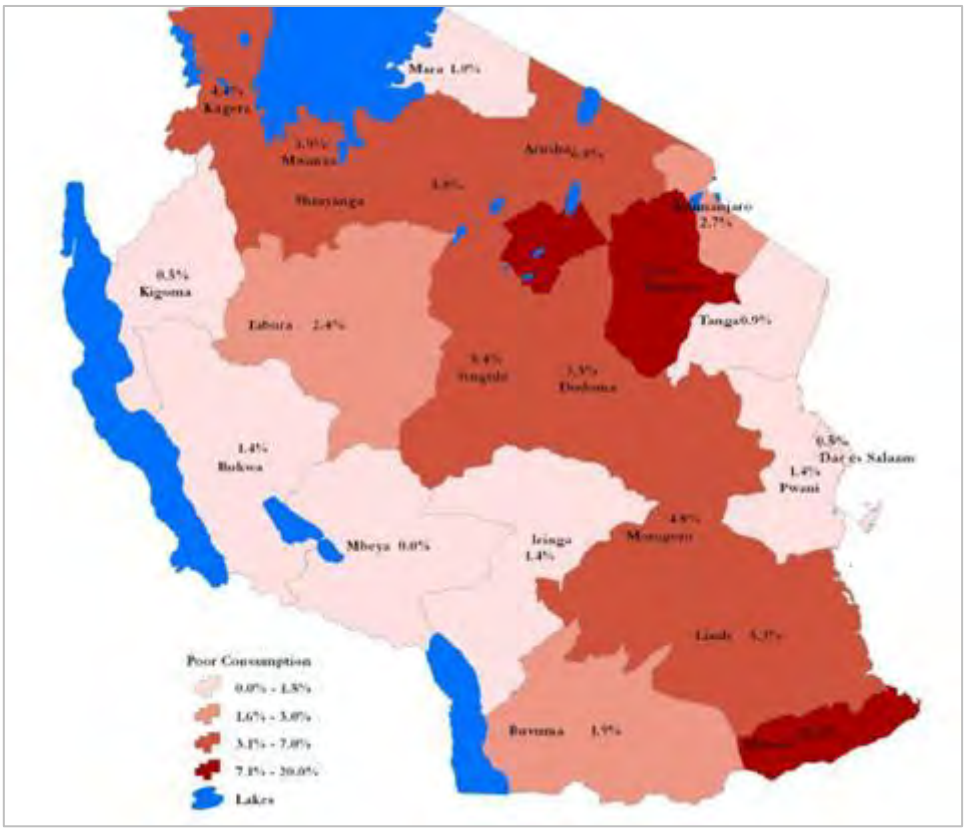
Unlikely to achieve　Likely to achieve　Achivable

（出所）United Republic of Tanzania (2008) Millennium Development Goals Report Mid-Way Evaluation 2000-2008, p.iii

3. 食糧安全保障・脆弱性による分析

WFP が 2010 年に 2009-2010 年の食糧安全保障・脆弱性に関し行った調査（CFSVA）において、タンザニア本土及びザンジバルの食糧安全保障の状況について分析を行っている。以下地図 3 のように南部に位置するムトワラ州（20%）、マニャラ州（17.6%）が食糧安全保障の確保が不十分な人口が多いことが分かる[29]。他方で西部の首都ダルエスサラーム、タンガ州、プワニ州の食糧安全保障はほぼ確保されている。CFSVA は、タンザニア本土の食糧安全保障に負の影響を与える要因として、低い識字率及び家畜へのアクセスを挙げている[30]。また、突発的に発生する外部要因、外部性衝撃（ショック）も負の影響を与えると指摘している。特に旱魃、食糧価格の高騰、疫病が指摘されている[31]。

地図 3　州別食糧安全保障が確保されていない人口の割合（本土）（%）



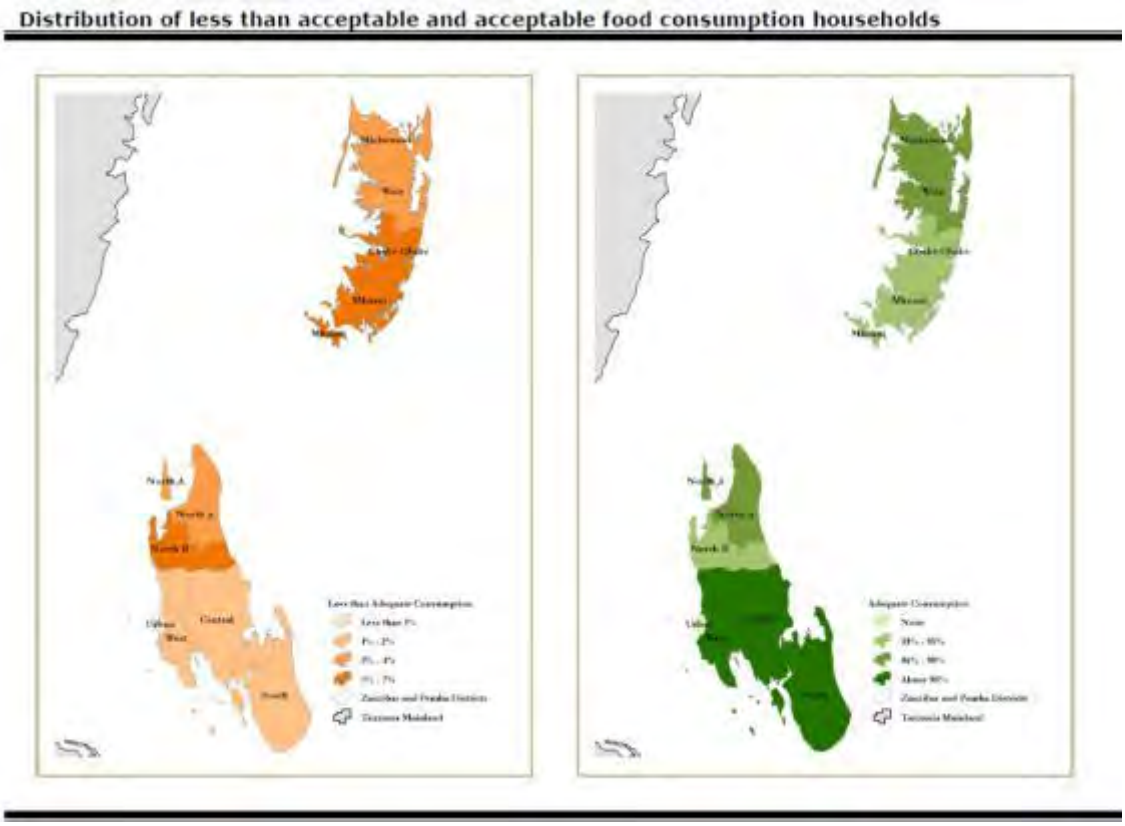
（出所）Comparative Food Security and Vulnerability Analysis (CFSVA) (2010), p64, Fig33

他方でザンジバルの状況は本土と比較すると状況は大きく異なっている。ザンジバル島全体で食糧安全保障が確保されていない割合は 3.3%と低い[32]。地域別には島中央部に位置

[29] WFP (2010) Comparative Food Security and Vulnerability Analysis p.2
[30] Ibid, p.5
[31] Ibid, p.6 及び pp.151-152
[32] Ibid, p.7

するチャケチャケ県がもっとも高く、6.8%が食糧安全保障に課題を抱えている。食糧問題の原因としては、近年続いている旱魃が要因とされている[33]。

地図 4　地域別食糧安全保障状況（ザンジバル島）



（出所）Comparative Food Security and Vulnerability Analysis (CFSVA) (2010), p138, Fig73

（注）左地図は十分に食糧安全保障が確保されていない人口の割合、右地図は十分に確保されている人口の割合を示す。

[33] Ibid, p.8

V. 社会的属性・特性と貧困との関連の分析

HBS（2007）、Poverty and Human Development Report（PHDR）2009 は多岐にわたる視点から貧困の特性、要因について分析を行っている。以下では特に世帯規模、職業（収入源）別、世帯主の教育水準、社会サービスの提供条項について解説を行う。

1. 世帯構成の特徴と貧困率

図表 17 に示されたように、世帯規模が大きい程貧困率が高い傾向が見られる[34]。例えば世帯規模が 10 人以上の家庭の半分以上（HBS1991/92 で 57.2%、HBS2000/01 で 56.8%、HBS2007 で 52.2%）は貧困状況にあり、全貧困人口に占める割合もそれぞれ 39.2%、27.9%及び 22.2%と高いものになっている[35]。

図表 17　世帯規模別貧困率の推移（1991-2007 年）

Table 8.1 Distribution of Poverty by Household Size

	HBS 1991/92		HBS 2000/01		HBS 2007	
Number of members	Headcount ratio	% of the poor	Headcount ratio	% of the poor	Headcount ratio	% of the poor
1	5.8	0.2	4.7	0.2	11.5	0.8
2	10.7	0.9	11.0	1.3	13.8	1.8
3	12.9	2.1	15.8	4.3	16.6	4.4
4	20.4	4.8	21.4	7.6	21.7	9.0
5	27.0	7.5	28.1	10.9	28.2	12.5
6	38.3	12.3	35.2	13.6	34.3	15.0
7	44.0	13.5	46.1	15.5	39.9	14.7
8	45.2	11.7	44.8	10.5	42.4	10.4
9	35.7	7.7	48.3	8.1	50.7	9.3
10 or more	57.2	39.2	56.8	27.9	52.2	22.2
Total	38.6	100.0	35.7	100.0	33.6	100.0

（出所）HBS2007 p54, Table8.1

また 15 歳以下と 64 歳以上の扶養家族の規模と貧困率も相関している。以下 図表 18 は扶養家族の割合と貧困率及び全貧困人口比を過去 3 度の HBS 調査の結果を基に纏めたものであるが、扶養家族の割合が高い程貧困率も高くなっていることが分かる[36]。

[34] Ibid, pp.54-55
[35] Government of Tanzania (2007) Household Budget Survey 2007. p.54
[36] Ibid, p.55

図表 18　扶養家族の割合と貧困率の推移（1991-2007 年）

Table 8.2 Distribution of Poverty by Proportion of Dependants

Proportion of dependants	HBS 1991/92		HBS 2000/01		HBS 2007	
	Headcount ratio	% of the poor	Headcount ratio	% of the poor	Headcount ratio	% of the poor
0.00 to 0.25	27.9	10.6	19.2	7.5	22.5	7.2
0.25 to 0.50	41.2	50.0	33.8	41.8	30.7	25.3
0.50 to 0.75	40.0	37.1	42.7	47.0	36.1	58.8
0.75 to 1.00	32.9	2.2	37.5	3.7	42.5	8.7
Total	38.6	100.0	35.7	100.0	33.6	100.0

Note: Dependants are individuals aged under 15 and 65 and above.

（出所）HBS2007, p55, Table8.2

2. 職業（現金収入源）と貧困率

過去 3 度の HBS は世帯主の職業（主な収入源）別に貧困率を算出している。これにより、世帯主の職業、現金収入の源により貧困状況は大きく異なっていることが分かっている。図表 19 で示されたとおり、2007 年の調査において、世帯主が失業している事例を除いて貧困率が最も高いのは世帯主の職業は農林水産業、自営業者となっている[37]。世帯主の職業別貧困率では農林水産業従事者世帯が 39.1%となっており、2000/01 年調査結果である 39.9%から大きな変化がない。また農林水産業従事者世帯の中で貧困層が占める割合は 2000/01 年の 80.8%からは若干改善し、74.4%となっている[38]。しかし、農林水産業は約 1,200 万人、タンザニアの全成人の 68%が従事する最大の産業であることも考慮すると、貧困世帯の大部分が農林水産業従事者世帯であることが推測される[39]。

また農業従事者の 81.2%が地方に居住していることから[40]、貧困世帯の大部分が地方に存在することも推察される。また、自営業者の約 22%は貧困となっており、その割合も 9.3%と高くなっている。

他方で、公務員や半官半民組織の従業員の貧困率は改善されており、1991/92 年には 18.6%及び 12.2%だったものが、2007 年には 10.3%及び 10.9%に改善している[41]。

[37] Ibid, p.55
[38] Ibid, pp.54-55
[39] Ibid,p. xii and p.35
[40] Ibid, p.36
[41] Ibid, p.55

図表 19　職業別貧困率の推移（1991-2007 年）

Table 8.4 Distribution of Poverty by Main Source of Income

Activity of Head	HBS 1991/92 Headcount ratio	HBS 1991/92 % of the poor	HBS 2000/01 Headcount ratio	HBS 2000/01 % of the poor	HBS 2007 Headcount ratio	HBS 2007 % of the poor
Farming / livestock / fishing / forest	42.3	85.7	39.9	80.8	39.1	74.4
Govt employee	18.6	3.3	15.3	1.8	10.3	1.5
Parastatal employee / other	12.2	1.1	8.1	0.3	10.9	0.7
Employee - other	29.8	2.0	20.2	3.0	20.9	3.3
Self employed with employees	31.7	4.9	19.1	1.4	15.2	1.0
Self employed without employees	24.5	0.2	22.5	5.0	22.4	9.3
Unpaid family helper in business	N/A	0.0	57.4	1.5	7.1	0.0
Housewife / housemaker / household chores	14.7	0.1	27.7	0.7	42.4	1.0
Student	N/A	N/A	N/A	N/A	18.5	0.0
Not active	41.8	2.7	45.1	5.5	46.7	8.6
Total	38.6	100.0	35.7	100.0	33.6	100.0

（出所）HBS2007, p56, Table8.4

現金収入を得る手段別で貧困率は異なっている。 図表 20 で示すとおり、農作物販売、換金作物販売によって現金収入を得ている人々の貧困率は、給料賃金の現金収入や営業利益で収入を得ている人々と比較すると、貧困率が高くなっている[42]。貧困率は事業者や給与取得者が約 20%であるのに対し、農作物販売者と 49.9%となっている。他方で畜産業で生計を立てている家計の貧困率は 2000/01 年と比較し 59.1%から 33%へと改善されている[43]。タンザニアでは灌漑設備等が未整備のため、現在も天水依存型の受給自足型農業が主流であり、その生産性が低いことが課題であり（詳細は VI にて後述）、また生産性の低い産業に多くの雇用と収入源を依存していることが、貧困の原因と指摘されている。

[42] Ibid, pp.55-56
[43] Ibid, pp.55-56

図表 20　現金収入を得る手段別貧困率の推移（2000 年, 2007 年）

Table 8.5 Distribution of Poverty by Main Source of Cash Income of the Household

Main source of Cash Income	HBS 2000/01 Headcount ratio	HBS 2000/01 % of the poor	HBS 2007 Headcount ratio	HBS 2007 % of the poor
Sales of food crops	40.6	46.9	40.0	49.9
Sales of livestocks	59.1	7.2	33.0	2.9
Sales of livestock products	33.3	1.4	29.2	1.1
Sales of cash crops	38.6	20.5	39.6	16.7
Sales of charcoal	N/A	N/A	39.2	1.6
Sales of timber / poles	N/A	N/A	41.1	0.7
Sales of firewood	N/A	N/A	52.7	1.3
Sales of other non-timber wild products (e.g. honey, medical plants)	N/A	N/A	33.5	1.2
Business income	24.0	8.4	20.7	7.1
Wages or salaries in cash	14.9	3.6	20.3	9.5
Other casual cash earning	32.8	4.9	34.5	2.1
Cash remittances	35.2	2.3	38.8	2.3
Fishing	28.3	1.5	24.5	1.7
Selling of local brew	N/A	N/A	27.9	1.8
Other	34.0	3.3	4.4	0.0
Total	35.6	100.0	33.5	100.0

（出所）HBS2007, p56, Table8.5

世帯主の性別による貧困率に関しては、 図表 21 のとおり男女で大きな差異はない。男性世帯主の家庭で 33.4%、女性世帯主の家庭で 33.8%となっている。また男性世帯主の家庭がタンザニアでは多いことから、貧困割合も男性世帯主の方が多くなっている。ただし、男性世帯主の家庭の貧困家庭の割合が 2000/01 年と比較すると 5.6 ポイント改善されているが、女性世帯主の家庭は 5.6 ポイント逆に悪化し、24.2%となっている[44]。

図表 21　世帯主の性別別貧困率（2000-2007 年）

Table 8.3 Distribution of Poverty by Sex of Household Head

Sex of head	HBS 1991/92 Headcount ratio	HBS 1991/92 % of the poor	HBS 2000/01 Headcount ratio	HBS 2000/01 % of the poor	HBS 2007 Headcount ratio	HBS 2007 % of the poor
Male	39.1	87.7	35.8	81.4	33.4	75.8
Female	35.3	12.3	35.3	18.6	33.8	24.2
Total	38.6	100	35.7	100.0	33.6	100.0

（出所）HBS2007, p55, Table 8.3

3. 教育水準と貧困

2000/01 年の HBS 調査時から、教育水準と貧困には高い相関関係が確認されており、2007 年の調査でも同様の傾向が確認された。特に世帯主の教育水準は世帯全体の貧困状況に大

[44] Ibid, p.55

きな影響を与えている[45]。図表 22 は世帯主の教育水準毎の貧困率及び人口の貧困割合を示したものである。最も高い貧困率は教育を受けていない世帯主となっており、45.6%（1991/92）、51.1%（2000/01）、46.5%（2007）と常に高い数値で推移している。他方で初等教育以上の教育を受けた世帯の貧困率は 1990/91 年の 13,2%から改善傾向にあり、2007 年には 9.9%となっている。教育を受けていない世帯と比べると初等教育以上の教育を受けた世帯の貧困率は5分の1程度の水準に留まっている[46]。全貧困人口に対する割合は、初等教育修了者が 62.6%と高い。これは初等教育修了者の絶対数が多いためと予想される[47]。

また、成人教育修了者の貧困率が改善されていることは注目されるべき変化である。1991/92 年の 51%から 2007 年には 38.2%と減少している。

図表 22　世帯主の教育水準と貧困の推移（1991-2007 年）

Table 8.7 Distribution of Poverty by Education of the Household Head

	HBS 1991/92		HBS 2000/01		HBS 2007	
Education of the head	Headcount ratio	% of the poor	Headcount ratio	% of the poor	Headcount ratio	% of the poor
None	45.6	32.2	51.1	36.9	46.5	32.7
Adult educ. Only	51.0	9.8	46.4	5.2	38.2	2.1
Primary only	36.4	56.0	31.7	55.1	32.1	62.6
Above primary	13.2	2.1	12.4	2.8	9.9	2.7
Total	38.6	100.0	35.7	100.0	33.6	100.0

（出所）HBS2007, p57, Table 8.7

4. 主要社会サービスと貧困

HBS2007 では、主要社会サービス（教育、医療及び給水）と貧困状況の関係に関しても分析を行っている。特にこれら 3 分野の社会サービスのアクセスに関して、貧困層と非貧困層との間でどの程度の差異があるのかについて、下記のとおり整理した。

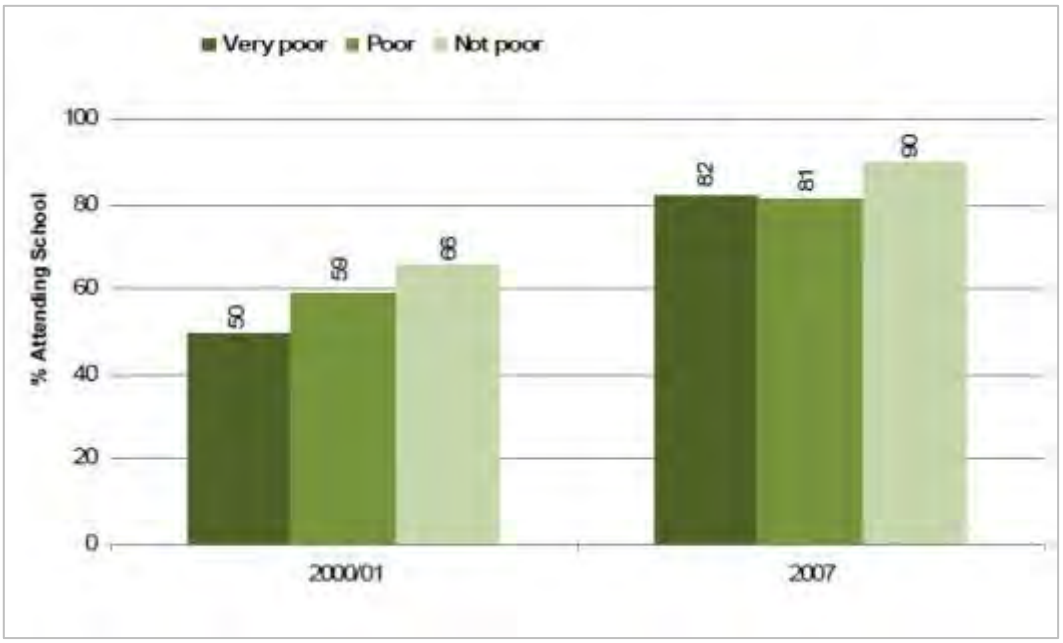
(1) 教育

教育及び識字率の改善は MDGs の目標の 1 つでもあり、政府の最優先課題の 1 つともなっている。 図表 23 で示すとおり、教育（初等教育）に関しては、2000/01 年以降全国的に就学率は大幅に改善している。貧困レベル別においても、全層で改善しており、特に最貧困層では 50%から 82%へ、貧困層で 59%から 81%へと大幅に改善している[48]。また 図表 24 は就学率を地域別に示したものであるが、ダルエスサラームを含む都市部で大きく改善し 2007 年時点で就学率は 95%以上となっている。同時に地方でも急激に改善しており、1991/92 年の 56.9%から 2007 年には 87.3%まで上昇している[49]。また CFSVA2010 では地域別の純就学率を掲載しているが、ルクワ州及びムトワラ州が 60%を僅かに下回っている

[45] Ibid, p.57
[46] Ibid, p.57
[47] Ibid, p.57
[48] Ibid, p.58
[49] Ibid, p.58

がその他の州は概ね 6 割が就学しており、タンガ州では 80%近い数値となっている。

図表 23　貧困状態別の就学率の推移（2001-2007 年）



（出所）HBS2007, p59, Figure 8.2

図表 24　地域別・貧困状態別での 7-13 歳の進学率の推移（1991-2007 年）

Table 8.8　Percentage of children aged 7-13 who are studying by poverty status

	HBS 1991/92			HBS 2000/01			HBS 2007		
	Very poor	Poor	Not poor	Very poor	Poor	Not poor	Very poor	Poor	Not poor
Dar es Salaam	59.2	69.7	66.1	56.3	69.6	79.9	89.9	91.8	96.1
Other urban areas	57.4	65.7	64.9	60.2	68.1	81.9	89.9	94.5	95.9
Rural areas	53.9	55.7	56.9	48.8	57.7	62.2	80.2	79.2	87.3
Total	54.4	57.3	58.6	50.1	59.2	66.3	81.8	81.3	89.6

（出所）HBS2007, p59, Table 8.8

図表 25　州別就学率（タンザニア本土）（2009/2010 年）

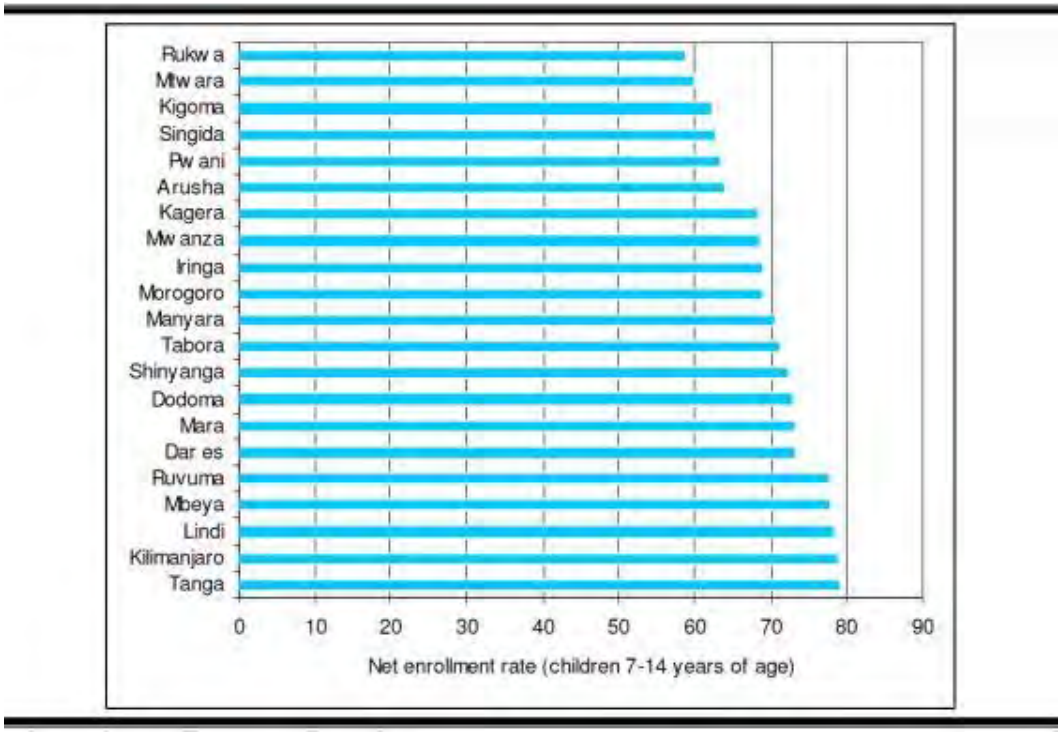


Fig3:Net enrolment rate by region

（出所）Comparative Food Security and Vulnerability Analysis (CFSVA) (2010) p23, Fig3

図表 26　地域別純就学率（ザンジバル）（2009/2010 年）

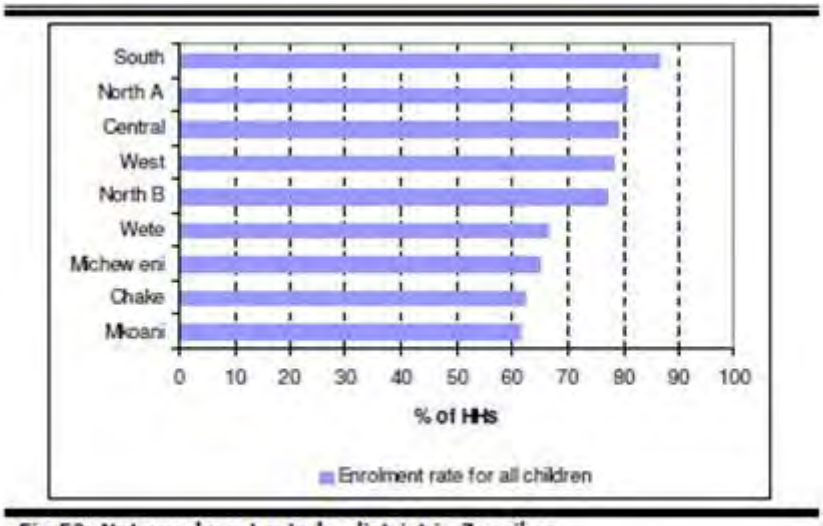


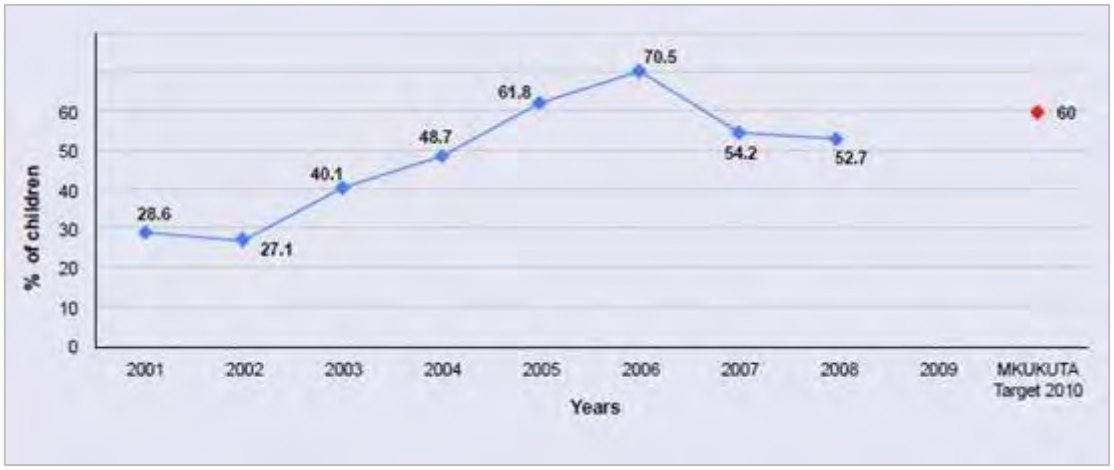
Fig 53: Net enrolment rate by district in Zanzibar
(Source: 2009/2010 CFSVA)

（出所）Comparative Food Security and Vulnerability Analysis (CFSVA) (2010), p104, Fig 53

初等教育の入学者と卒業者の比率を示した Cohort Completion Rate は 2006 年の 78%か

ら 2008 年には 62.5%に悪化している。HBS2007 において、その主な理由として、1) 高い学費、2) 学習開始年齢の若年齢化、3)（特に農村部で根強い）教育不要論が指摘されている[50]。また初等教育卒業試験（PSLE）の試験結果は毎年変動している（ 図表 27 ）。変動理由は毎年異なるが、2007 年の悪化はシラバスの変更が影響している。また 2005 から 2006 年にかけて初等教育卒業試験の合格率が大幅に改善しているが、この試験結果の信憑性は低いと考えられている[51]。

図表 27　初等教育卒業試験合格率の推移（2001-2008 年）



（出所）PHDR2009 pp44 Figure 10

（注）◆の 60 は 2010 年に達成すべき目標値を示している。

Form4（中等教育の最終学年）卒業試験の合格率は 2006 年の 35%から 2008 年には 27%と悪化している。特にコミュニティースクールの成績が低く、合格率は 30.5%程に留まっている（2007 年の試験結果分析）。理数科の合格率は特に低く、その最大の理由は中等学校教員の質の問題だと考えられている[52]。

他方で高等教育の就学者数は増加傾向にあり、MKUKUTA で目標としている 2009/10 年に就学者数 9 万人は 2008/09 年度に既に達成したことが確認された。しかし、所得階層別で就学率は大きく異なり、最上位層の就学率が 56%であるのに対して最貧困層は 0%となっている。また男女別にも格差が大きく、女子学生が全体に占める割合は 34%となっている[53]。

職業訓練校（Technical and Vocational Education and Training : TVET）の卒業生数は 2009 年に実施されたタンザニア基礎教育調査（BEST）によると、12.6 万人から 9.3 万人と大幅に減少しているが、退学者数が多いことが明らかとなっている[54]。

---

[50] Ministry of Finance and Economic Affairs (2009) Poverty and Human Development Report 2009, p.43
[51] Ibid, pp43-44
[52] Ibid, pp49
[53] Ibid, pp50
[54] Ibid,pp51

(2) 医療サービス

医療サービスへのアクセス権に関しては、貧困状態別で大きな差異はなく、医療機関の利用率は最貧困層から非貧困層まで概ね 60-70%で推移している。これは体調不良の概念に個人差があることも関係していると推測される[55]。ただし、費用の高い民間医療機関へのアクセス率に関しては、非貧困層の約 31%が利用しているが、貧困層及び最貧困層の利用度はそれぞれ 23.7%と 24.8%となっている。

図表 28　医療機関へのアクセス率（貧困状況別）（2007 年）

Table 8.10　Frequency and Source of Health Consultations by Poverty Status (HBS 2007)

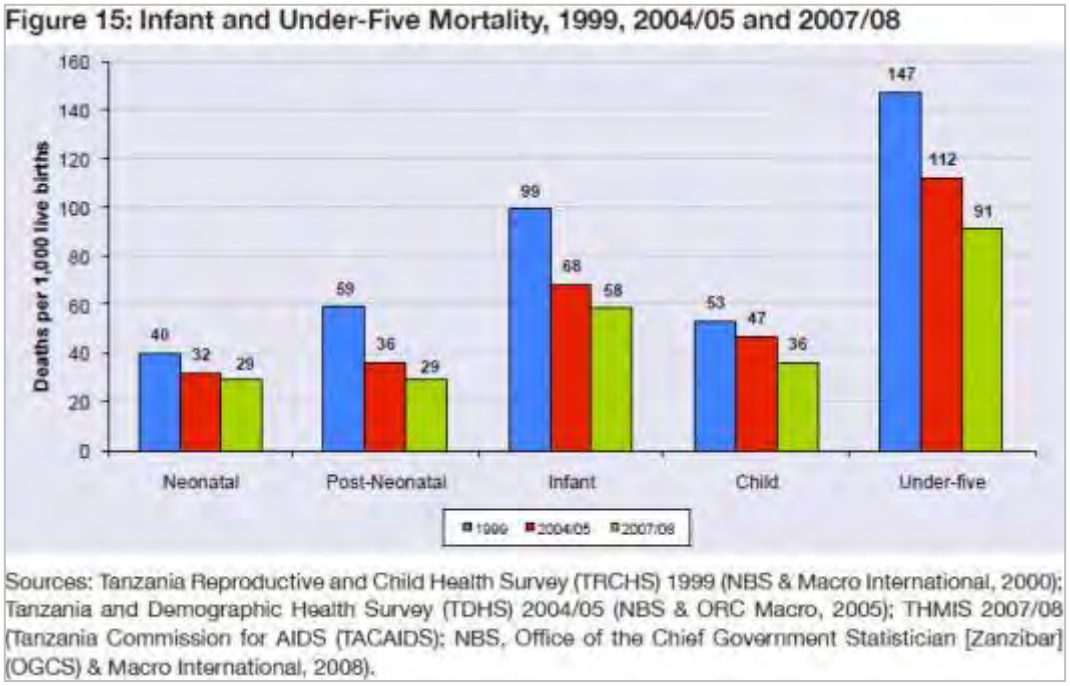
	Very poor	Poor	Not poor
% who consulted a health provider, 2007	62.4	66.2	71.3
% who consulted a health provider, 2000/01	68.5	62.1	70.1
Source of consultation, 2007			
Government			
Public health centre or hospital	20.6	22.9	30.9
Public dispensary	47.6	40.5	34.2
Private modern:			
Private health centre or hospital	2.9	2.2	4.1
Private dispensary	12.0	17.8	20.7
Private doctor/dentist	2.9	2.3	2.2
Mission facility	5.9	3.2	4.3
Other:			
Traditional healer	9.3	11.3	8.7
Pharmacy	3.9	4.1	3.9
Other source	5.9	7.5	4.1
% who consulted multiple providers, 2007	9.7	10.3	11.8
% who consulted any government source, 2007	66.1	60.8	63.1
% who consulted any private facility, 2007	14.8	19.9	24.4

（出所）HBS2007, p60, Table 8.10

乳幼児及び 5 歳未満児死亡率は改善傾向にある。現在のスピードで改善が続けば MKUKUTA の目標値のみならず、2015 年の MDGs の達成も可能であるとして、タンザニア関係者も PHDR において、「朗報」として強調している。1999 年以降の推移は以下図表のとおりとなっている[56]。

[55] Government of Tanzania (2007) Household Budget Survey 2007. pp.59-60
[56] PHDR2009, p.53

図表 29　乳幼児死亡率の推移（1999-2007 年）



（出所）PHDR2009 P53 Figure15

5 歳児未満の死亡率は改善傾向にあるが、地域別では若干の差異がある。2007/08 年度では、都市部が 100 であるのに対し農村部では 112 であった。また貧困階層別では、最上位層と最下層とで 20%の格差が確認できる。この改善に貢献している要因は、マラリア対策が貢献している。特にマラリア被害の大きい地方での対策を講じたことによる効果が大きい[57]。

(3) 給水サービス等

給水率（安全な水へのアクセス可能な人口の割合[58]）は、最貧困層の給水率が 50.8%（1991/92 年）から、44.3%（2007 年）と悪化傾向にある。他方で、貧困層についても、44.1%（1991/92 年）から 46.7%（2007 年）に、非貧困層は 37%（1991/92 年）から 54%と改善傾向を示している。MKUKUTA II によると、2007 年に水セクター開発プログラムが策定され、その結果 8,285 ヶ所の給水ポイントが新たに建設され、189 万人に裨益しているとされている。また MKUKUTA II では、都市と農村部それぞれでの給水率も示しており、これによると、地方給水率は 2005 年の 55%から 2009 年 12 月には 58.7%に、都市給水は 74%から 84%に改善している。また、地域別の給水施設・衛生設備への非アクセス率は 図表 31 で示すとおりである。地域間でばらつきがあり、例えばマラ州では約 70%以上の人々

[57] Ibid, pp.53-54
[58] 給水率は図表 30 の水道水（Piped）と Other Protected を合計したものとした。

が水サービスにアクセスできていない一方で、キリマンジャロ州のようにその割合が 10%以下に留まっている州もある。

また、トイレ及び電力へのアクセスに関しては、9 割以上がトイレへのアクセスを有している一方で、電力へのアクセス率は全国的に低く、2007 年には非貧困層の電化率は 15%にとどまっている。

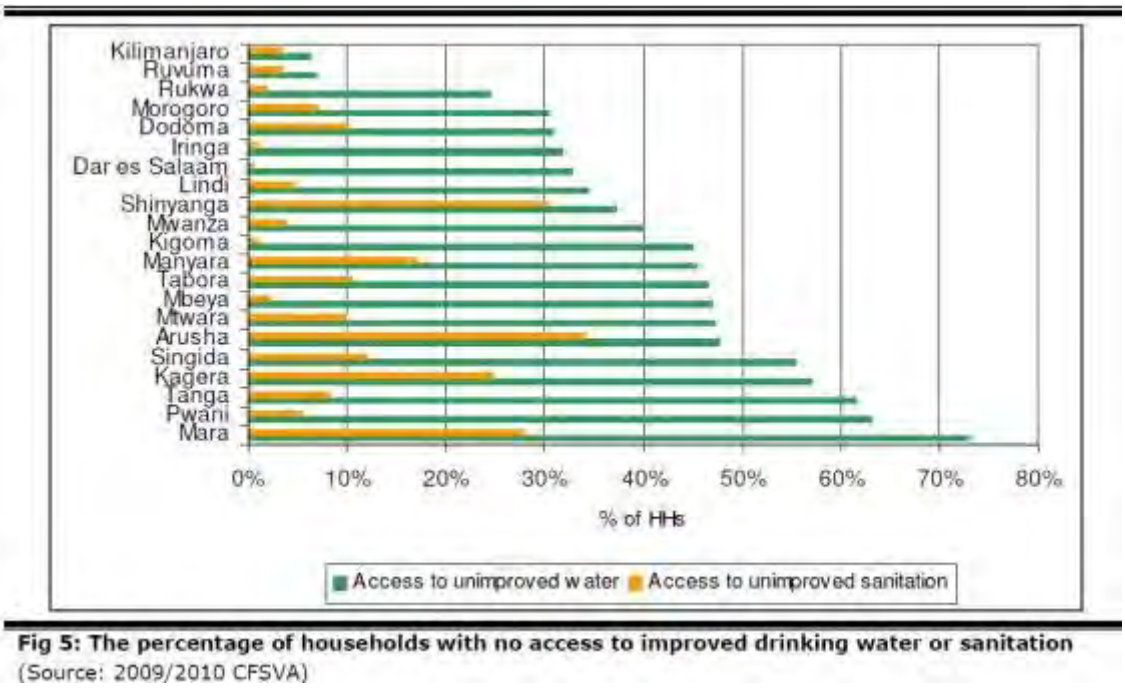
図表 30　給水率及びトイレ施設へのアクセス率（1991-2007 年）[59]

Table 8.11　Household Facilities by Poverty Status

	1991/92			2000/01			2007		
	Very poor	Poor	Non-poor	Very poor	Poor	Non-poor	Very poor	Poor	Non-poor
Drinking water									
Piped	37.5	32.8	36.1	28.6	30.0	43.0	25.7	28.0	36.4
Other protected	13.3	11.3	9	16.9	18.1	15.7	18.6	18.7	17.6
Unprotected	47.8	54.4	52.8	54.4	50.9	40.2	54.8	51.2	41.8
Other	1.4	1.4	2.2	0.2	0.9	1.2	1.1	2.1	4.2
Total	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
% with any toilet	91.5	90.8	93.5	88.6	90.9	94.1	88.7	90.7	93.7
% with electricity	4.0	4.9	10.2	2.9	5.4	12.1	2.9	3.7	15.7

（出所）HBS2007, p60, Table 8.11

図表 31　地域別の上水道・衛生設備にアクセスがない割合（2009/10 年）



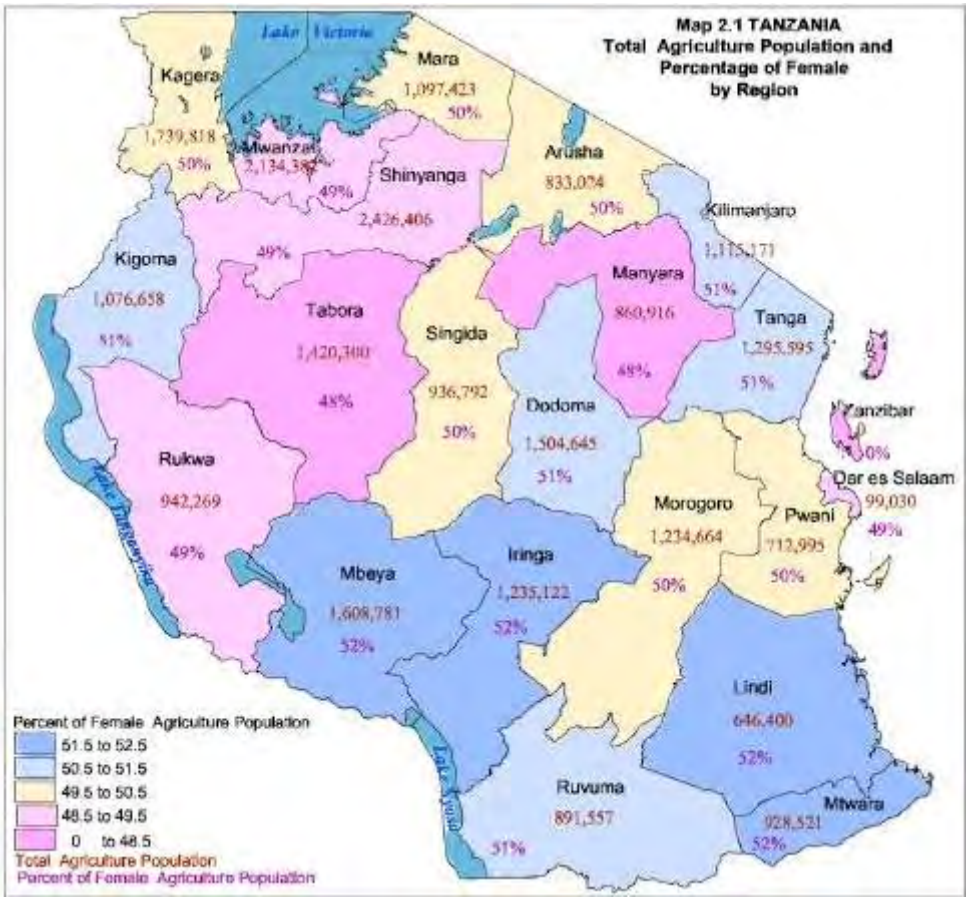
（出所）Comparative Food Security and Vulnerability Analysis (CFSVA) (2010), p30, Fig5

[59] HBS2007 では、2001 年の結果で水道水（Piped）が高く見積もられすぎたのではないかとの指摘がある。

5. 農村部と貧困

農村部及び都市部で貧困の特性は異なっている。上述のように農村部では農業が主要産業であり、その大半が貧困状況にある。農業は地方における基幹産業であり、地方の人々は雇用の 7 割、収入の 6 割を農業に依存している。農業で生計を立てる世帯も増加しており、1997/98 年時には約 439 万世帯であったのが、2002/03 年には約 481 万世帯と 8.5%増加し、またその特徴として女性世帯主の農家の増加率が多いことが指摘されている[60]。農業従事者は全国に広がっているが、特にビクトリア湖周辺のシニャンガ州、ムワンザ州、カゲラ州に多くなっている（地図 5 参照）。

地図 5　州別農業従事者数及び女性農家の割合（単位：人、%）（2002/03 年）



（出所）National Sample Census of Agriculture 2002/2003, p.11, Map2.1

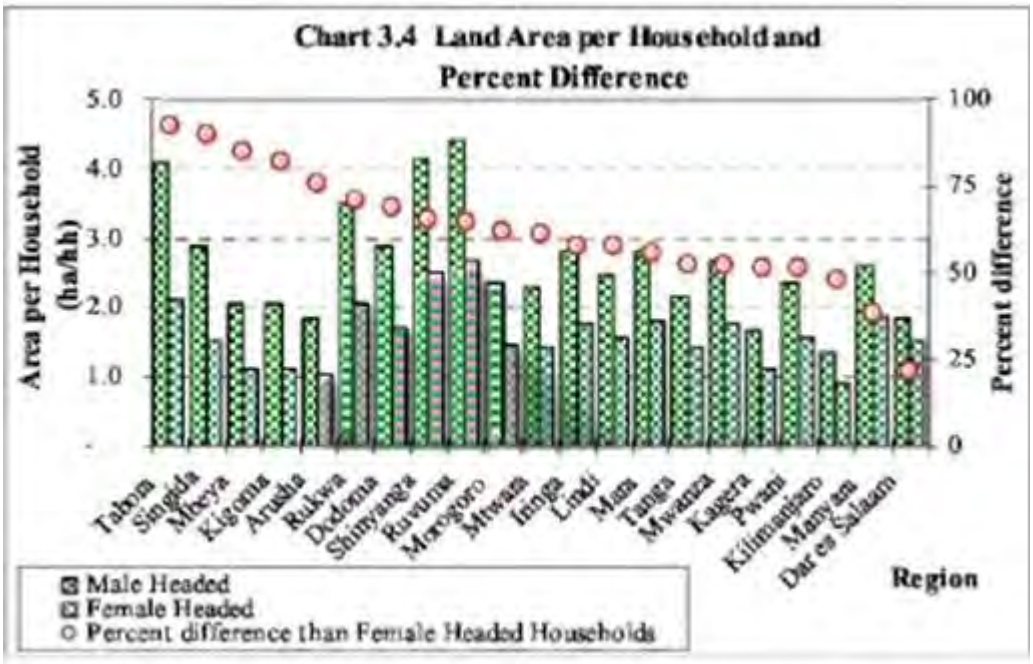
タンザニア農業の課題はそのまま貧困削減に向けての課題となる。主な課題は 2 つあり、1 つは小規模農家が大半を占め 1 人当たりの耕作面積が小さいこと、もう 1 つは近代化が遅

[60] Government of Tanzania (2003) National Sample Census of Agriculture 2002/03, p.31

れ原始的な農法（機械の未導入、天水農業及び畜産依存）であることが指摘されている[61]。また灌漑設備も大半が未整備であり灌漑による耕作面積は 15 万ヘクタール程に留まっている[62]。

タンザニアにおける農家 1 戸当たりの耕作面積は 2.4 ヘクタールに過ぎない。州別では 図表 32 が示すとおり、ルブマ州、シニャンガ州、タボラ州で男性世帯主の農家の平均耕作面積が 4 ヘクタールを越えている。また、男性世帯主の農家の方が女性世帯主と比較し 30%程広い農地を有する等、ジェンダー間格差がある。

図表 32　州別・男女別の平均耕作面積（2002/03 年）



（出所）National Sample Census of Agriculture 2002/2003, p31, Chart 3.4

小規模農業の課題としては生産性の低さが挙げられる。タンザニアでは農業の生産性は 1970 年代よりも悪化している。なぜなら、タンザニアでは未だに天水農業が主流であり、農業投入材（肥料、機材等）も少なく、農産物の生産量が毎年不安定となっている。図表 33 は農業投入材の使用率を示したものであるが、肥料は 26%、改良した種子は 18%、殺菌剤は 17%と、それぞれの使用率が低いことが分かる。また生産時の機材の活用についても、耕作面積の 70%は手製のくわ、20%が牛でとなっており、トラクターによる耕作は 10%に過ぎない[63]。

---

61 Ministry of Finance and Economic Affairs (2009) Poverty and Human Development Report 2009. p.24
62 http://www.tanzania.go.tz/agriculture.html（2012 年 3 月 23 日アクセス）
63 http://www.tanzania.go.tz/agriculture.html（2012 年 3 月 23 日アクセス）

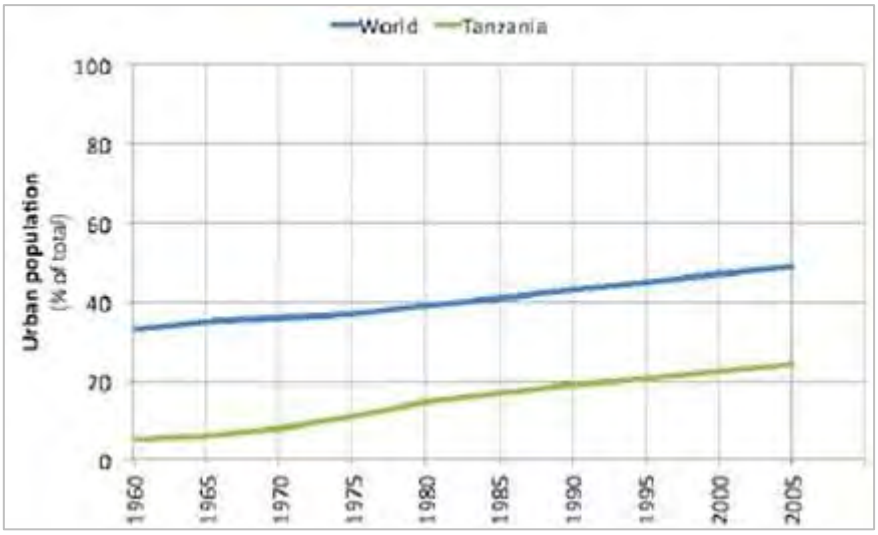
図表 33　農業生産投入されている用地の割合（2003 年）

Type of Input	Households with Access to Inputs		Households without Access to Inputs	
	Number	%	Number	%
Farm yard manure	1,253, 312	26	3,507,277	74
Improved seed	877,308	18	3,885,281	82
Fungicides	794,372	17	3,968,911	83
Inorganic Fertilizers	552,953	12	4,209,636	88
Compost	281,678	6	4,480,911	94
Herbicides	76,202	2	4,686,388	98

（出所）SADC (2006) Implementation And Coordination of Agricultural Research and Training In the SADC Region. Situation Analysis of Agricultural Research and Training in the SADC Region (Tanzania), p2

他方で都市部では都市部への人口流入が貧困の要因となっている。都市化が進んでいるにも係らず、都市のインフラ整備状況及び雇用が人口増加に追いついていないことが、都市住民の貧困化をもたらしている。都市部での課題は増幅する都市人口に都市部の整備状況が追いついていない事にある。世界平均と比較すると決して急速な都市化ではないものの、タンザニアの都市人口比率は 1960 年の 5%から 2005 年には 24%と、着実に都市化が進んでいる（ 図表 34 参照）。

図表 34　都市化率の推移（1960-2005 年）



（出所）WHO Tanzania Health Profile

他方でダルエスサラームを中心とする都市部のインフラ整備は進んでおらず、都市は過剰人口状況にあると考えられる。例えば電気へのアクセス率はダルエスサラームで 2001 年と比較して 2006 年で 3.9 ポイント、その他都市で 3.8 ポイント悪化している。

図表 35　地域別家庭の電化率の推移（2000/01, 2007 年）

Table 3.4　Percentage of Households with Electricity

Measure	Dar es Salaam	Other Urban Areas	Rural areas	Mainland Tanzania
Any electricity HBS 1991/92	51.4	21.7	2.6	8.5
Electricity grid HBS 2000/01	58.9	29.7	2.0	10.0
Electricity grid HBS 2007	55.0	25.9	2.5	12.1
Solar electricity HBS 2000/01	1.3	1.7	1.6	1.6
Solar electricity HBS 2007	0.7	0.9	0.5	0.6

（出所）HBS2007, p12, Table 3.4

また、都市の労働市場は流入する人口を吸収することができず、失業率は 30%台で推移している。その結果、正規雇用にあぶれた都市の住民は生活のために非正規（インフォーマル）セクター従事者となり、大量の非正規労働者を生み出すこととなっている。具体的には、ダルエスサラームでは非正規雇用従事者[64]を抱える世帯数は 2001 年に 22 万 3,707 世帯であったが、2006 年には 2.3 倍の 52 万世帯に拡大している。その他の都市部においても約 1.4 倍に増加している（図表 36 参照）。また非正規雇用者が従事する分野としては、圧倒的にサービス業・販売業が多く、全体の半分を占めている。次いで技術職が約 20%を占めている。またその形態としては、80%以上が自営業となっている。

図表 36　非正規雇用者を有する世帯の推移（2001, 2006 年）

Table 6. 1 Households with informal sector activities, 2001 and 2006

Area	2001		2006	
	Number	Percentage	Number	Percentage
Dar es Salaam	223,707	62	529,175	57
Other urban	554,347	61	809,839	54
Urban total	778,054	61	1,339,014	55
Rural	1,235,777	27	1,973,760	33
Total	**2,013,832**	**35**	**3,312,774**	**40**

（出所）ILO（2006）Integrated Labor Force Survey, p43, Table 6.1

[64] 主に 24-65 歳の年齢層の男女が中心で、全体の 8 割を占めている。

図表 37　非正規雇用の内訳（男女別）（2006 年）

Table 6. 7 Engagement in the informal sector by employment status, 2006

Employment status	Main activity			Secondary activity		
	Male	Female	Total	Male	Female	Total
Paid employee	0.7	0.7	0.7	0.6	0.2	0.4
Self employed (non-agricultural) with employees	17.0	9.9	13.8	7.8	3.2	5.6
Self employed (non-agricultural) without employees	81.1	87.1	83.8	89.5	94.4	92.0
Unpaid family helper (non-agricultural)	1.2	2.4	1.7	1.7	2.2	1.9
Total	**100.0**	**100.0**	**100.0**	**100.0**	**100.0**	**100.0**

（出所）ILO（2006）Integrated Labour Force Survey, p46, Table 6.6

非正規雇用による収入は一般的に正規雇用より低く、また労働条件も悪く不安定なケースが多い。失業率が高止まりしていることからも正規雇用の機会が限定的であることが推察され、都市部での貧困を引き起こす慢性的な要因であると考えられる。

VI. 貧困に影響を与えている国内外の要因

1. 旱魃

旱魃はタンザニアにおいて、人々の生活（貧困状況）に最も影響を与える現象として考えられている。地域別には、特に北部（アルーシャ、タンガ、マニャラ、キリマンジャロ、マラの各州）、中部（ドドマ州及びモロゴロ州）及び南東部（ムトワラ州及びリンディ州）において、旱魃の影響が大きい[65]。上述のように、タンザニアの農業は地方の主要産業であるが、近代化が遅れており、依然として天水農業が主流であり、その為雨量は生産量に直接影響を与える要因となっている。旱魃の発生する時期は各地域で異なっている。北部は年間を通じて旱魃被害に遭うリスクを抱えており、農業の生産量に影響を与えている。中部や南東部では、特に農作物の収穫期に旱魃のリスクが高くなっている[66]。以下 図表 38 は旱魃被害をタイプ別に纏めたものである。

図表 38　旱魃の影響（タイプ別）

Risk classifications	Type/Timeliness of risk	Regions impacted
Seasonally low	Low hazard all year round, as perceived by households in areas with typically good moisture supply	Ruvuma, Rukwa, Kagera and Shinyanga
Seasonally high	High hazard nearly all year round, as perceived by households in areas of lower rainfall and moisture availability	Arusha, Tanga and Kilimanjaro
Peak season hazard	Hazard peaks during middle of cropping season, most likely at flowering or grain-filling stage; in areas with the highest February rainfall variability	Dodoma, Morogoro and Lindi
Planting season hazard	Hazard peaks during planting and early crop development stages	Mtwara, Dar es Salaam, Mara, Kigoma, Mwanza, Manyara, Tabora, Singida, Mbeya, Iringa, and Pwani

（出所）WFP(2010) p5

図表 39 は旱魃が各家庭の収入、資産、食糧供給に与える影響について纏めたものである。貧富の差に関係なく、旱魃により 90.8%の家庭が収入が減ると回答しており、また 33.4%が資産の減少、79%が食糧へのアクセス機会が減少すると回答している。また一度旱魃に襲われた際の生活の建て直しについては、半数以上の家庭が「建て直しできない」と回答している。

[65] WFP (2010), p.5
[66] Ibid, p85

図表 39　収入、資産、食糧供給に対する旱魃の影響（2009/2010 年）

Table 21: Impact of drought on household income, assets and food supply

	Income loss due to drought	asset loss due drought	food loss due to drought	Has HH recovered?	
				Total recovery	Partial recovery
Wealth Quintile					
Poorest	88.8	29.2	87.6	5.2	29.1
Poorer	91.7	36.9	81.9	9.5	31.4
Moderate	89.9	32.9	78.4	10.5	34.8
Richer	91.2	35.8	73.1	13.1	43.5
Richest	92.3	32.3	71.6	25.3	40.7
Food consumption groups					
poor	80.0	23.7	90.5	6.0	29.4
borderline	91.6	30.9	82.3	6.5	28.0
acceptable	91.4	35.0	76.9	14.5	38.2
Mainland Tanzania	90.8	33.4	78.9	12.1	35.3

Source:2009/2010 CFSVA

（出所）WFP(2010) p88 Table 21

2. 食糧価格の高騰

食糧価格高騰は旱魃に次いで人々の生活（貧困状況）に影響を与える要因となっている[67]。食糧価格高騰問題はタンザニア全土に広がる問題であるが、地域別では、キリマンジャロ州やマロ州の北部地域、ドンマ州やシンディカ州の中部地域、リンディ州及びムトワラ州の南東部地域は、特に影響が大きい地域となっている[68]。また職業別では、日雇い労働者、漁業従事者、公的支援に依存している人々への影響が大きく、それぞれ 62.5%、69%、60.8%の人々が食糧価格の生活に与える影響が大きいと感じている。他方で食糧生産者である農業従事者への影響については、農業従事者の内 43.8%のみが影響があると回答しており、他業種と比較すると限定的となっている[69]。

食糧価格が特に高騰したのは 2009 年で、金融危機の影響もあり、食糧価格が例年の数倍上昇した。特に首都のダルエスサラームでは、主食のとうもろこしの値上がりが激しく、市民の生活に悪影響を与えた。また季節別では、1 月が最も食糧価格が高く、5 月から 6 月が最も価格が安い季節となっている[70]。

3. 植物病害及び疫病

植物病害や家畜の疫病の発生は、農家にとって毎年繰り返される問題となっており、全体の 34%の家庭が生活に影響を与えると回答している。地域別には、リンディ州、キゴマ

[67] 53%の家庭が、「食糧価格の高等が世帯に影響がある」と回答している（WFP2010）
[68] Ibid, p.5
[69] Ibid
[70] Ibid, p.97

州、ムトワラ州、ムワンザ州、マラ州への被害が大きい。他方でシンヤンガ、ルヴマ、アルーシャの各州の被害は限定的となっている。職業別には、大規模農家への影響が最も大きい[71]。

4. グローバル経済動向

MKUKUTA II においては、海外の経済状況が、タンザニア経済成長及び貧困削減を含む社会開発に対し悪影響を及ぼす要因と指摘している。海外の経済状況は様々な経済的結びつきを通して、タンザニアに影響を与えるが、特に貿易と投資（対内外国投資）の面で影響が大きい。特に 2008 年に発生した世界金融危機は、当初タンザニア経済成長の停滞、海外からの資金流入の減少といった影響を及ぼしたが、その後徐々に人々の生活に直接関係するガソリン価格や食糧価格の高騰へと影響が拡大していった。ガソリン価格の高騰はその他日用品の値上がりをもたらし、2000 年代前半は 5%台で推移していたインフレ率が、2009 年には 12%となった[72]。

他方で、このような世界的な経済動向は、タンザニアにバイオ燃料生産のための農業用地の買収といった新たな機会を提供した[73]。

5. 難民問題及び住民移動

不安定な太湖地域やアフリカの角地域情勢は、タンザニアへの難民流入を生み出している。過去数十年でタンザニア本土に、約 50 万人の難民が流入したと考えられている[74]。大規模な難民の流入はタンザニアにとって大きな課題であった。政府は近年積極的な難民対策を採っており、帰国促進プログラムや難民キャンプの閉鎖のみならず、地域との融合を促進すべくブルンジ人約 17 万人に対してタンザニア市民権を付与するといった支援も実施している。

難民問題に加えて、国内の住民の移動も課題となっている。特に近年、都市への住民の移動が活発化している。WFP(2010)によると、過去 3 ヶ月に間に家族の誰かが他の地域に移転したと答えた家庭は 13.1%にのぼっている。その内 33%は求職、25%が教育機会のためとなっている。また、移転先は全体の 43.5%が都市部となっているが、都市部では、大量に流入する住民を受け入れるだけキャパシティはないため都市貧困の増加の一因となっている[75]。

---

[71] Ibid, p.97
[72] 食糧不足もインフレ率高騰の貢献要因である。
[73] MKUKUTA II , pp.2-3
[74] WFP (2010) p28
[75] Ibid, p.28

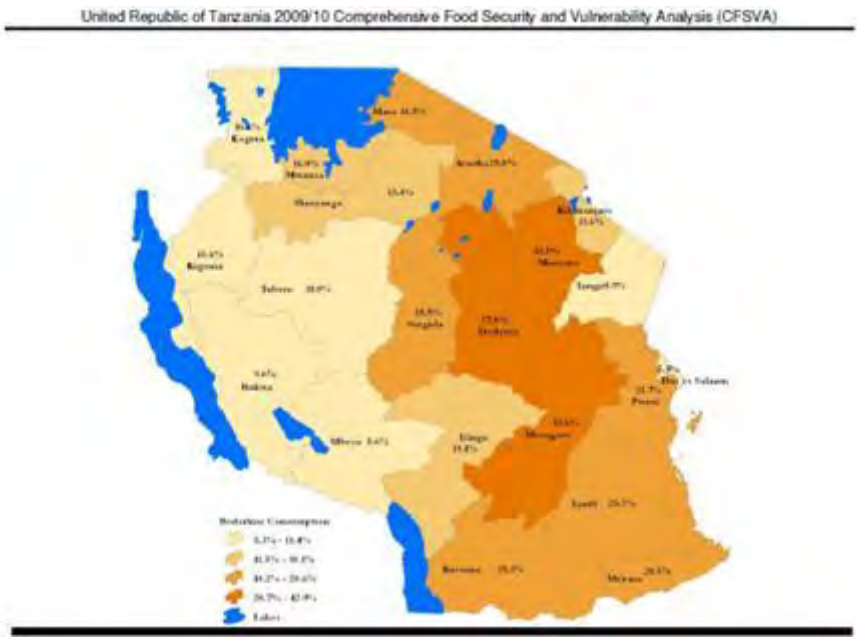
VII. JICA の優先課題における貧困

1. 貧困削減のための経済成長

タンザニアは 2000 年以降順調に経済成長を果たしており、実質 GDP 成長率は年約 7%の伸びを示している[76]。とりわけ、鉱業、建設業、卸・小売業、通信業、観光産業が経済成長を牽引しており、従来タンザニアにおける主要産業であった農業の GDP への貢献率は 24%にまで減少している[77]。また貿易面でも輸出額は従来からの主要輸出産品である一次産品の割合が縮小し、代わりに非伝統的輸出品目（鉱物資源、工業品）を中心に伸びている[78]。特に 6%台の経済成長にも係らず、一人当たりの年間 GDP は 530 米ドル（2010）と低い水準に留まっている[79]。総人口の 75%が従事し[80]、貧困者を多くかかえる農村部の農業セクターへの支援と、都市部に集中している経済成長の恩恵を農村部に波及させる必要がある。

既述のように、タンザニア農業の最大の課題は低い生産性にある。その背景には小規模農家が大半を占めていること、近代化が進んでおらず天水農業が中心であること、工業化、種子・肥料・農薬等の投入が不十分であることが指摘されている[81]

地図 6　Borderline poor consumption に苦しむ家庭の割合（州別）



（出所）WFP (2010) p4

[76] Ministry of Finance and Economic Affairs “Poverty and Human Development Report 2009” p.4
[77] Ibid, p.5
[78] Ibid, p.16
[79] World Bank (2011) World Development Indicator database. http://siteresources.worldbank.org/DATASTATISTICS/Resources/GNIPC.pdf（2012 年 3 月 23 日アクセス）
[80] Ministry of Finance and Economic Affairs “Poverty and Human Development Report 2009” p.24
[81] Ibid, pp.24-26

2. 経済成長と貧困削減を支えるインフラ開発：運輸・交通、電力・給水

インフラ整備はタンザニアの競争力強化、投資促進、貧困の要因となっている社会サービスセクター改善に貢献すると考えられている。また運輸・交通インフラに関しては、タンザニアがメンバーである東アフリカ共同体（EAC）、南部アフリカ開発共同体（SADC）等の地域統合が進む中で、貿易自由化の動きも進行しており、インフラ整備の重要性が一層増している[82]。

道路へのアクセスは経済成長及び貧困削減に不可欠である。教育施設、保健施設及び市場にアクセスする為には、道路が整備されている必要がある。WFP（2010）の調査結果によると、コミュニティーから主要道路にアクセスにかかる時間が徒歩で 1 時間以内と答える人々の割合は73.2%、1-2 時間かかると答えた人が 16.3%、3 時間以上と答えた人が 10.3%と、アクセスが限られている。地域別にはダルエスサラーム州やルブマ州では、それぞれ95%、100%の人々が 1 時間以内の徒歩圏に主要道路があるが、アルーシャ州やマニャラ州は依然として低く、47.4%と 52.4%となっている[83]。

[82] Ibid, p.28
[83] Ibid, p28

地図 7　タンザニア(本土)の道路整備状況

RWANDA
BURUNDI
KENYA
CONGO
ZAMBIA
MALAWI
MOZAMBIQUE
Bukoba
Musoma
Sirari
Mwanza
Usagara
Shinyanga
Nzega
Kigoma
Kabora
Singida
Babati
Dodoma
Arusha
Moshi
Namanga
Tanga
Dar es Salaam
Morogoro
Mikumi
Iringa
Ifakara
Mahenge
Rungwa
Mpanda
Sumbawanga
Mbeya
Tunduma
Songea
Tunduru
Masasi
Mtwara
Lindi
Kasulu
Kibondo
Kibiti
Segera
Tarakea
Makuyuni
Mangu
Manyoni
Ipole
Nyakanazi
Kobero
Rusumo
Kyaramulo
Muleba
Bukoba
Mbamba Bay
Makambako
Njombe
Kasesya
Mpanda
Comanga
Horo horo
Tavela
Mkiwa
Mwanza
Usagara
Shinyanga
Nzega
Kigoma
Kabora
Singida
Babati
Dodoma
Arusha
Moshi
Tanga
Segera
Morogoro
Dar es Salaam
Mikumi
Iringa
Ifakara
Mahenge
Rungwa
Mpanda
Sumbawanga
Mbeya
Tunduma
Songea
Tunduru
Masasi
Mtwara
Lindi

・ 近代的エネルギーサービス（太陽光、バイオマス、風力及び石炭発電）へのアクセス向上（MKUKUTA II 開始時点で 4%）
・ 農村部における通行可能な道路の整備（目標 75%）（新たに 2,200km の道路が整備）

ただし、これら活動の成果は MKUKUTA II 発表時点での状況は芳しくない。給水インフラについては一部コミュニティーで住民が中心となった小規模ダムの建設が進行しているが、その動きは限定的であり、タンザニア全土にどのようにスケールアップをしていくかが課題となっている。電力インフラについては、発電量の増加が経済成長に追いついておらず停電が頻発していることが指摘されている。最後に運輸・交通インフラについては整備された道路は 2005 年と比較して改善されているが、空港・港湾開発が遅れている。また都市部での道路整備のコスト高が課題として指摘されている[84]。

このような状況を受けて、MKUKUTA II では、運輸・交通セクター開発は分野横断的に開発が必要な分野と位置づけられており、特に地方（農村部）の道路整備を労働集約的な建設手法で整備していくこと、貿易促進の為に港湾整備が優先度の高い開発として提案されている[85]。

図表 40　MKUKUTA II で示されている運輸・交通セクターの優先活動

Order of Priority Areas in transport physical infrastructure:

1. Primary infrastructure in rural areas (feeder, collector, community roads;
2. Labor-based methods in rural roads construction and maintenance;
3. Transit traffic facilitation (port and maritime);
4. Trunk and regional roads;
5. Rail and air transport and sea ports;
6. Urban transport.

（出所）MKUKUTA II

電力に関しては、気候変動への影響も鑑み、太陽光、風力、バイオ燃料等を活用するという、MKUKUTA I とほぼ同内容の目的が設定されている。また具体的な数値目標として、発電量を 2015 年までに 2 倍にすることが掲げられている[86]。

[84] Ibid, p.9
[85] Ibid, p.53.都市交通網の整備は優先順位が低く 6 項目中 6 番目となっている。
[86] 2010/11 年予算には日本の他に、ノルウェー、英国、スェーデン、デンマーク、アイルランド、カナダ、ドイツ、フィンランド、オランダ、スイス、EU、世界銀行、AfDB が、電力分野への資金支援を行っている。

図表 41　MKUKUTA II で示されている電力セクターの優先活動

Order of Priority Areas in energy
1. new power plants; 2. renewable energies; 3. rural electrification; 4. Expanding and strengthening the National Grid; 5. Promoting projects which qualify for carbon credit; 6. Promoting participation of local land owners in generation.

（出所）MKUKUTA II

給水インフラに関しては、タンザニアは豊富な水資源を有しているにも係わらず水資源の利用率は 6%程に留まっている。MDGs 目標にも掲げられている給水施設のアクセスは貧困削減及び社会開発に重要であるだけでなく、産業用給水の整備は経済開発にも貢献すると考えられている。MKUKUTA II では流域水源の管理、活用されていない給水システムの再稼動が優先度の高い活動として実施されている。

図表 42　MKUKTA II で示されている給水インフラの優先活動

Order of Priority Areas in water supply
1. Strengthening basin water resource management; 2. Rehabilitating non functioning systems; 3. Constructing new dams; 4. Integrated management of water resources.

（出所）MKUKUTA II

3. 全国民に対する行政サービスの改善

タンザニアは、政府とドナーによる援助協調の下で開発が進められている国であり、日本も 2001 年より有償資金協力、無償資金協力のスキームを活用し一般財政支援（GBS）を行っている。同セクターにおける MKUKUTA I の成果として、National Framework for Good Governance や各種司法制度改革、その導入による公共財政管理の改善や司法制度の浸透を挙げている。また女性問題解決や汚職問題についても進捗があったと記されている[87]。GBS による支援総額は 8,120 億タンザニアシリング、総予算の 42%を占めており（2006/07 年予算で）[88]、国家開発の為の不可欠な支援となっている。GBS の活用に関しては、被支援国側に高い行政能力とその使途に関し高い透明性の確保が必要となっている。また MKUKUTA II において、開発課題を特定し、それを予算措置を含めた形での政策への反映、また政策実施後のモニタリングと、開発・貧困削減政策実施の為には、高い行財政管理能

[87] MKUKUTA II,　p.vii
[88] Ministry of Finance. Joint Press Release of the Government of the United Republic of Tanzania and the Federal Government of Swizterland.

力も不可欠であるとされている。そのため、MKUKUTA 及び MKUKUYA II はガバナンスの改善及びモニタリング能力強化を 3 つの柱うちの 1 つに位置づけている。

添付 1. 参考文献リスト

外務省（2011）　対タンザニア国事業展開計画

JBIC（2006）　貧困プロファイル（タンザニア）
http://www.jica.go.jp/activities/issues/poverty/profile/pdf/tanzania_j.pdf

JICA 研究所（2011）国別主要指標　タンザニア
https://libportal.jica.go.jp/fmi/xsl/library/public/data/shihyo-p.html

Economic Commission for Africa (2003) Poverty Mapping for Selected African Countries.
http://www.uneca.org/publications/ESPD/PovertyProfiles.pdf

Government of Tanzania (2007) Household Budget Survey 2007

Ministry of Finance and Economic Affairs, United Republic of Tanzania (2010), National Strategy For Growth and Reduction of Poverty II
http://www.povertymonitoring.go.tz/Mkukuta/MKUKUTA%20BOOK%20II%202010.pdf

MKUKUTA Secretariat, Poverty Eradication Division, Ministry of Planning, Economy and Empowerment, United Republic of Tanzania (2009) Poverty and Human Development Report 2009
http://www.tz.undp.org/docs/Tanzania_PHDR_2009.pdf

National Bureau of Statistice, United Republic of Tanzania (2007) National Sample Census of Agriculture 2002/2003
http://harvestchoice.org/files/Tanzania_2002-03_Vol%204%20(Gender).pdf

National Bureau of Statistics. United Republic of Tanzania (2010). Tanzania National Panel Survey Report, Round 1, 2008-2009.
http://www.nbs.go.tz/tnada/index.php/ddibrowser/10/download/8

National Bureau of Statistics. United Republic of Tanzania (2010). Trends in Food Insecurity in Mainland Tanzania
http://www.fao.org/docrep/014/i2074e/i2074e00.pdf

Poverty Eradication and Economic Empowerment Division. Ministry of Finance and Economic Affairs (2009) Millennium Development Goals Report, Mid-Way Evaluation: 2000-2008
http://www.tz.undp.org/docs/mdgprogressreport.pdf

Revolutionary Government of Zanzibar (2007). Zanzibar Strategy for Growth and Reduction of Poverty
http://www.unpei.org/PDF/TZ-zanzibar-strategy-growth-poverty-reduction.pdf

SADC Secretariat (2008) Implementation and Cooperation of Agricultural Research and Training (ICART) in the SADC Region (Tanzania)
http://www.sadc.int/fanr/agricresearch/icart/inforesources/ICARTNewsletterNo2.pdf

Tanzania Planning Commission, United Republic of Tanzania. Vision 2025
http://www.tanzania.go.tz/pdf/theTanzaniadevelopmentvision.pdf

UNDAF (2005) United Nations Development Assistance Framework (2007-2010)
http://www.undg.org/archive_docs/8328-Tanzania_UNDAF__2007-2010__-_UNDAF_2007-2010.doc

UNDP (2009) Millennium Development Goals Report.
http://www.tz.undp.org/docs/MDGprogressreport.pdf

United Republic of Tanzania (2006). Agricultural Sector Development Programme (ASDP)
http://www.kilimo.go.tz/publications/english%20docs/ASDP%20FINAL%2025%2005%2006%20(2).pdf

World Food Programme (2010) Comprehensive Food Security and Vulnerability Analysis, United Republic of Tanzania.
http://reliefweb.int/node/370992

World Food Programme (2010) Vulnerability Analysis and Mapping
http://documents.wfp.org/stellent/groups/public/documents/ena/wfp227079.pdf/ 2-7

WHO Tanzania Urban Health Profile
http://www.who.or.jp/uhcprofiles/United_Republic_of_Tanzania.pdf

添付 2. 主要な情報源リスト

タンザニア連合共和国

首相・官房府　http://www.tanzania.go.tz/ministriesf.html

政府　http://timor-leste.gov.tl/

財務省　www.mof.go.tz/

統計局　www.nbs.go.tz/

国際機関

国連開発グループ国別チームタンザニア

http://www.undg.org/unct.cfm?module=CoordinationProfile&page=Country&CountryID=URT

世界銀行　タンザニア事業　http://go.worldbank.org/7OG4X3VKW1

UNDP　タンザニア事務所　www.tz.undp.org/

UNDG

http://www.undg.org/unct.cfm?module=CoordinationProfile&page=Country&CountryID=URT&fuseaction=UN%20Country%20Coordination%20Profile%20for%20Tanzania

アフリカ開発銀行　タンザニア事業

http://www.afdb.org/en/countries/east-africa/tanzania/

貧困データ

世界銀行データ　http://data.worldbank.org/country/tanzania

国連公式 MDG データ　http://mdgs.un.org/unsd/mdg/Data.aspx

UNDP 人間開発指標　タンザニア

http://hdrstats.undp.org/en/countries/profiles/TZA.html

タンザニア政府　統計局　www.nbs.go.tz/